

いのち
生命の水 うるおす未来

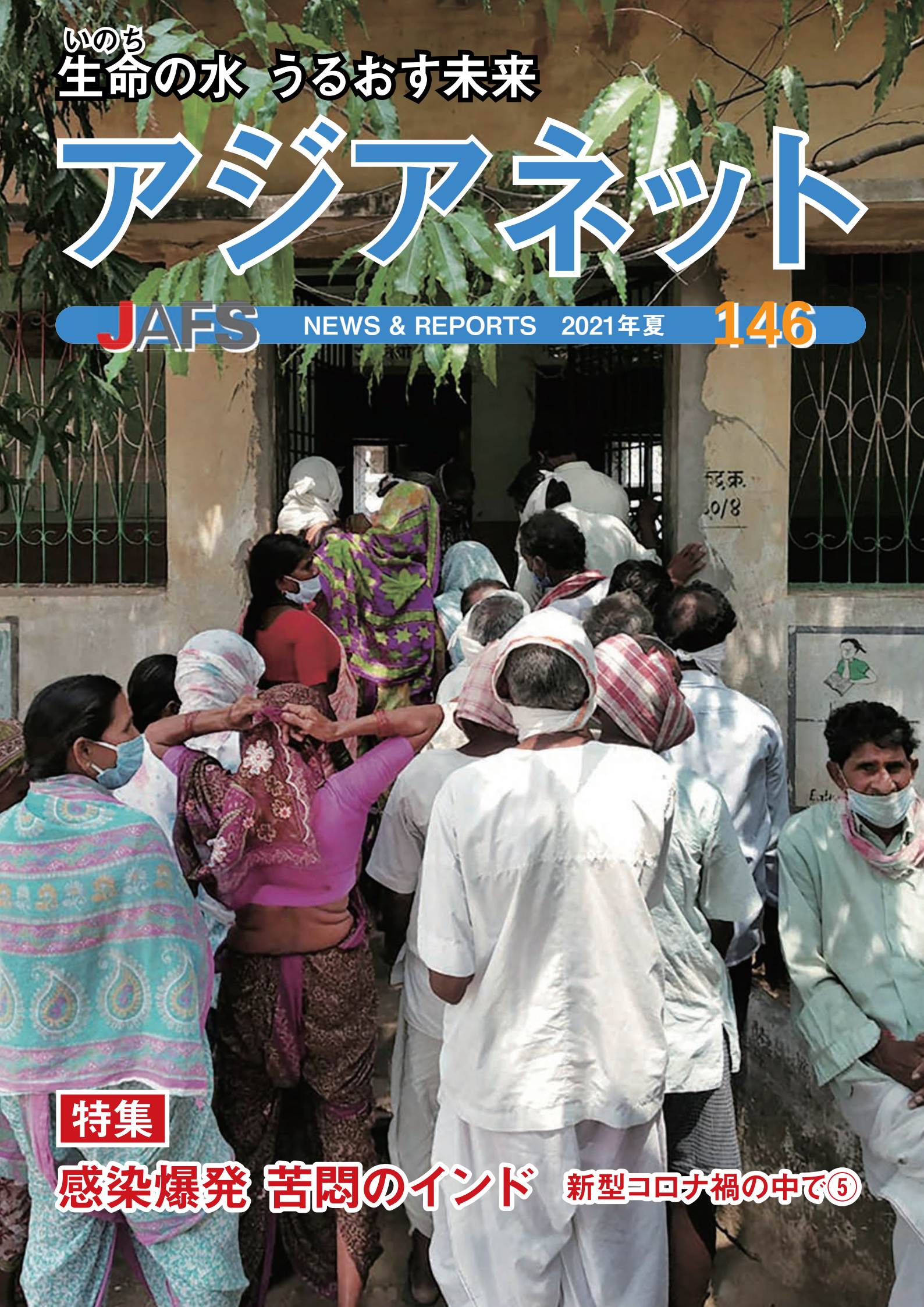
アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS

2021年夏

146



特集

感染爆発 苦悶のインド 新型コロナ禍の中で⑤



since 1979

公益社団法人アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society

JAFS

● 主な目次 ●

「巻頭言」現代の鹿の王を息長く支えよう 02

特集＝新型コロナ禍の中で⑤

感染爆発 苦悶のインド／死の床から娘への手紙／コロナ禍だからこそ一ろう学校の生徒と手話で情報発信 他 04～11
K・A・パティルさんを悼む 12
わが妻、ティルクマリ・プンをしのぶ 13

「井戸ができた村」 14・15

図解 井戸ができるまで 16・17

2020年度活動報告／2021年度の事業

貧困対策／環境／水／子ども／国際交流／
罹災者支援／サイクル・エイド／国内での
普及啓発の各事業 18～26

2021年度 社員総会報告 27

2021年度 主な支援事業の背景 28・29

「JAFS プラザ」＝国内の活動 30・31

アジアの子のためチャリティ・コンサート
／道歩きを楽しんで募金する会 他

新入会員紹介・領収報告 32・33

ネパール揚水事業 3年目に 34

「環境コラム」 35



アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2021年3月現在、井戸建設（累計2150基）や植林（累計257万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <https://jafs.or.jp>

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

「鹿の王」たちの遺志引き継いで



法花 敏郎

アジア協会アジア友の会
副会長

上橋菜穂子の小説「鹿の王」（角川書店）は架空の東平瑠帝国に突如まん延した謎のウイルスの物語です。主人公は二人。一人は東平瑠帝国相手に故郷を守ろうと戦ったが敗れて岩塩鉱の奴隷となった戦士団「独角」の頭のヴァン。「鹿の王」と呼ばれていました。もう一人は250年前に滅びた王国の末裔の天才的な医師、ホッサル。ある日、不思議な黒犬が岩塩鉱を襲い、かまれた奴隷が次々と死亡。ただ一人生き残ったヴァンは鎖を引きちぎって逃亡します。騒ぎを知ったホッサルはその病気が伝説の「黒狼熱」と推定。生まれながら免疫力のあるヴァンの血液を採って治療に役立てようと思いい、追跡を始めます。追い、追われる二人はやがて手を結び「黒狼熱」の悪用を企てるグループに立ち向かう。2015年の本屋大賞、日本医療小説大賞をダブル受賞しました。

今日、世界を覆う新型コロナウイルスは、この作品が発売されてから5年後に発生。世界の死者は300万人を超えました。失業者、飲食店の閉店も続出。私たち「アジア協会アジア友の会」（略称・JAFS）も

「巻頭言」現代の鹿の王を息長く支えよう 02
「JAFS プラザ」＝国内の活動 30・31
「環境コラム」 35

からも近所の女性に布のカバンづくりを教え、二人の里子を引き取って育てていたティルクマリ・プンさんの感染、死亡の知らせが届きました。活動中の仲間の感染も報告されています。出稼ぎの仕事を手放して自殺、パソコンが無くてオンラインの授業を受けられない、日雇いの仕事がなくって食事にも事欠く家庭……。こうした実情を記事で伝えて募金を呼び掛け、お米や豆、油、消毒剤、担架、呼吸器などを現地に届けることができました。ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。「鹿の王」とは「支配者」の意味ではなく、鹿の群れが危機に陥った時、自らの命を賭して敵の前に躍り出て群れを逃がす勇敢な鹿のこと。志半ばで逝った三人は現代の「鹿の王」です。三人のご冥福をお祈りするとともに、その遺志を引き継いでコロナ禍の中で奮闘する仲間の活動を息長く伝えたいと思っています。

● プロフィール ●

ほっけ・としろう 三重県生まれ。1970年、朝日新聞社入社。大阪社会部で裁判所、大阪地検特捜部、内政などを担当。朝日ビル社長を経て2014年からJAFS理事。去年6月から副会長。「和歌山カレー毒物混入事件」のスクープで日本新聞協会賞、朝日新聞の長期連載「この国の足音」で坂田賞を受賞。

JAFS 会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

感染爆発 苦悶のインド

特集 新型コロナ禍の中で⑤

陽性者2976万人、死者38万人

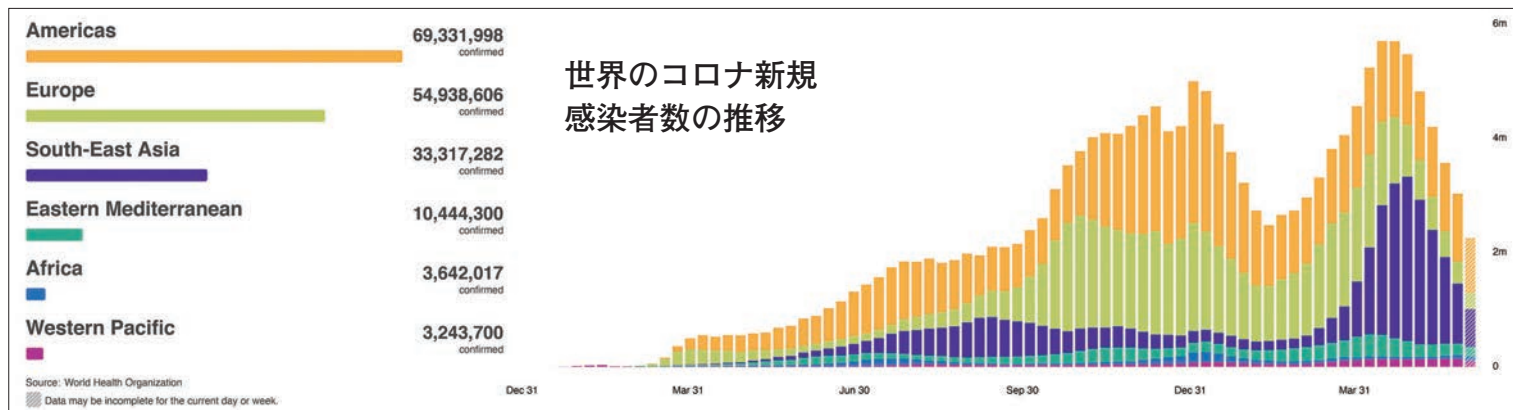
変異株が猛威

全世界で猛威を奮っている新型コロナウイルス感染症は4月以降、インド全土で新型変異株による感染爆発が起き、6月18日までの累計感染者は約2976万人、死者は約38万人に達しました。中でもJAFSの提携団体が多数あるマハラシュトラ州は、累計感染者約585万人、死者約12万人と、インド全国で最多となっています。現地から、不十分な医療と貧困からくる命の危険と生活の困窮を訴え、支援を求める手紙が続々と寄せられました。カルナータカ州のAFSビジャプール会長であったK・A・パティールさん、隣国ネパールではテイルクマリ・ブンさんら、現地でJAFSの活動に協力してくれていた方々の計報も相次ぎました。6月に入って新規感染者数はやや減少傾向にありますが、マレーシアやフィリピンなどでは逆に感染が拡大しており、収束の見通しはまだまだ立っていません。

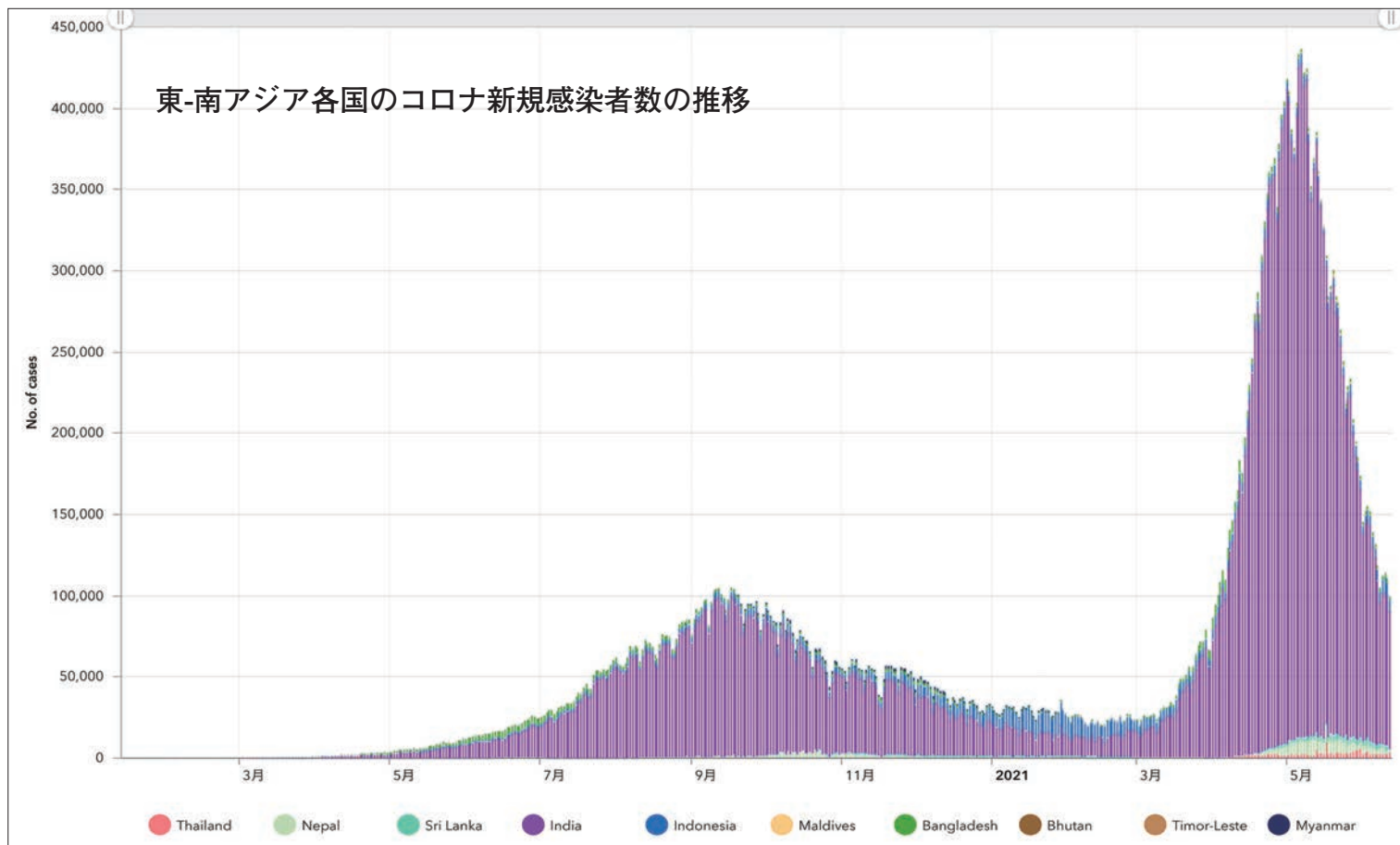
東-南アジア各国の新型コロナ
累計感染者と累計死者
2021年6月18日現在

	感染者数	死者数
インド	29,762,793	383,490
インドネシア	1,963,266	54,043
カンボジア	40,782	380
シンガポール	62,366	34
タイ	210,782	1,577
ネパール	617,947	8,641
バングラデシュ	844,970	13,399
フィリピン	1,339,457	23,276
マレーシア	678,764	4,202

世界のコロナ新規
感染者数の推移



東-南アジア各国のコロナ新規感染者数の推移



▼仕事を失って故郷に帰る移民労働者が、ロックダウンのためバスや電車が利用できず、都市の外に一時的な避難所を建てて生活している
＝マディヤ・プラデーシュ州ラトラム県バンジャリ村



「食べ物がない。仕事がない」

●インド 5月18日

ビシヤール・フィリップ・パランジヤベ（AFSナグプール）マハラシュトラ州ナグプールでのコロナのパンデミックは、おそらく「コミュニティへの広がり」段階に入っ

います。これは非常に危険で深刻な状況であり、それがどのくらい続くかは誰にもわかりません。州政府は、感染の連鎖を断ち切るために制限を課す以外に選択肢がありませんでした。スラムに住む子どもたちは、非スラム居住者と比べて、栄養失調による低

体重に苦しんでおり、成人も同様です。栄養価の高い食べ物の不足は、免疫力を低下させ、感染症が蔓延しやすい環境を生みます。スラム街では、安全な水と衛生設備を利用できず、手洗い、自己隔離、ソーシャルディスタンスなど、ウイルスの拡散を防ぐ取り組みを行える環境はありません。

さらに、インドは他国と比べ、コロナの検査実施体制面で劣っており、スラム居住者が医療施設で初期症状を見

つけることなどほとんどできません。移民労働者を除いて、多くの家族が稼ぎ手を失い、孤児、高齢者、女性が率いる家族がパンデミックの影響を受けています。貧しい社会に取り残された多くの弱い労働者は、生活のリスクだけでなく、安全と健康面で深刻な影

「薬を、酸素を、メーターを」

救急車の中で息絶える人も

5月8日 サティアプラカシユ・ギヤンバー（AFSロナラ）
ロナラ村のあるマハラシュトラ州ナグプールは、コロナ感染者の死亡率が0・95％と州で2番目に高く、検査陽性率は34％と最も高くなっています。最も差し迫った心配の一つは、医療



用酸素の不足です。個々の患者だけでなく、病院でさえ足りません。症状自体の悪化でなく、必要な酸素を投与できなかったために患者が死亡したという報告が多く寄せられています。

中等度の肺炎となり呼吸困難の兆候が現れる血中酸素飽和度94未満の患者は、酸素濃縮器を用いた酸素投与を受けられるとされています。濃縮器は、酸素飽和度90〜94の軽度から中等度の在宅隔離患者が酸素レベルを維持するには、自宅で取り扱える最も有効な手段です。飽和度88〜92の患者は通常なら入院に値しますが、病床不足で入院できない場合にも用いられています。在宅治療ではパルスオキシメーター（皮膚を通して動脈血酸素飽和度と脈

いています。買うために他人にお金を乞うこともあります。食事をとることができない場合も多々あります。政府はスラムの人々に食料品を配っていますが、多くの人々にそれが届かず、食料不足は解消していません。今後の支援の必要性は緊急かつ重大です。

拍数を測る装置）を用いて血中酸素飽和度を指で測定します。ロナラ村でも今日までに6人がコロナで死亡し、多くの感染者が入院できず在宅治療中です。パルスオキシメーターと酸素濃縮器の支援が求められています。

5月12日
A・ブリート・セルバージ（SSH）
タミルナドゥ州では、これまでに129万7500人がコロナに感染。うち1万4974人が死亡しました。13万1468人は、まだ入院中です。インド保健省は同州の感染状況を分類しました。残念ながら州内のデインディガル地区とナマカル地区は「ホットスポット（感染リスクが高い場所）」に分類されています。コロナの影響を受けたすべての人々と協力したいと思っていますが、資源

と適切な人員が不足しています。非常に弱い立場の人々のために働くことが私たちの願いです。

5月11日
カシナート・デオガデ（RUDYA代表）
マハラシュトラ州ガッチオリ県には12のタルカ（市町村）があり、そのすべてで毎日、感染が報告されています。5月8日には、431人の新規症例と61人の死亡が報告され、合計死者数は528人となりました。第1波は主に都市部に限定されていましたが、残念ながら第2波は制御不能であり、あらゆる村がパンデミックにさらされています。政府や他の機関は、薬、ベッド、酸素、人工呼吸器が不足しているため、状況に対処できていません。

RUDYAの職場調査によると、問題は新しい変異種だけでなく、人々の意識の欠如と貧困にもあることがわかりました。人は発熱、風邪、頭痛、体の痛みに苦しんでいます。病院へ検査に行くことを恐れています。家の中には隔離するのに十分なスペースがありません。ワクチン接種をオンラインで登録する方法を知らず、ワクチンについて多くの誤解を持っています。最近、私の故郷であるラッカマプーリポリを訪れました。人口約4500人のうち100人以上が発熱、咳、頭痛、体の痛みに苦しんでいました。サ

ティ病院があるムスカ村同様です。RUDYAは地方自治体に、検査とワクチン接種のためのヘルスキャンプを組織するよう要請しました。ラッカマプーリポリとムスカ村でパンデミックを監視する委員会を設立し、病院の緊急電話番号、ベッドの空き状況を知らせ、自治体や医療チームなどの助けを借りて村の校舎で患者を隔離することを提案しました。また、村の警備員とともに、高齢者を対象とした一般的な検査を組織し、症状のある患者を保健センターに送って検査しています。

私たちの活動現場の人々は非常に貧しく、多くは日雇い労働者です。ロックダウンの長期化で職を失うことを恐れ、症状を報告することを恐れています。あらゆる物価が高騰しています。タバコを巻くのに使うテンドウの葉の収集シーズンは、少数民族の人々の重要な収入源です。多くの家族が森で葉を集め、家に持って行き、選別します。収集中や移動中に高齢者が感染すると、家族全員が感染する可能性があります。彼らに衛生習慣と感染予防を教え、経済的に支援することが重要です。RUDYAは、主要な村で意識向上キャンペーンを計画しています。また、食料品キット、マスク、消毒剤、手洗い、医薬品を配布する予定です。

5月13日
ダンラッジ・K・ガワイ（AFSア



アムラワティ県にある公立病院の様子。部屋に詰め込んだベッドに、コロナ患者がぐったりと横たわる

設現場で働き、日雇いの賃金で家族の基本的なニーズを満たしていました。現在は、すべての人が働くことができないわけではありません。かつては、特に夏の間、広場や道端で品物売る陶芸家がいましたが、厳格な「新型コロナウイルスガイドライン」のために、売ることができません。それでも多くの人が昼夜を問わず仕事をやり遂げ、子どもたちも学校に通っていました。しかし今は、子どもたちがeラーニング施設を利用するのを助けるためのスマートフォンを買う余裕がないため、学校教育が止まっています。

5月20日
プリティシユ・M・バツアルウアー（AFSヤバトマル）
マハラシュトラ州ヤバトマル県では、コロナが制御不能です。県の統計を見ると、陽性患者総数は65817人、死亡者は1577人。さらに増える可能性があります。過去1か月半の陽性患者の死亡率は全国平均を上回っています。

ベッド、人工呼吸器、酸素を備えた公立病院は利用できず、患者は治療不足のために命を落とさなければなりません。多くの患者が救急車の中で命を落としました。私立病院も同様で、利用できるベッド、酸素、人工呼吸器はありません。貧しい人々はお金がないために私立病院に行けず、感染症の発

生率も高い状況です。

ロックダウンで、小規模労働者の生活も疲れ果てました。この1年間、施設が正常に機能していないため、家賃や電気代の支払い、給与の受け取りなど、様々なことを心配しています。

子どもたちは携帯電話がないため、オンラインで教育を受けられません。精神的ストレスをたくさん抱えています。そして多くの人が自殺しました。

失業者も増えました。感染拡大当初、いくつかの社会団体の支援を受け

予防接種に不信感

5月8日

プラモッド・ソラット（HDSI代表）

マハラシュトラ州アムラワティ県では、160の村がロックダウンされ、多くの人が職を失い、収入がありません。食べる物がなく、適切な治療を受けるお金もありません。誰かが感染すると、親戚でさえも、恐れて、誰も彼らを支援していません。

私立病院での治療費用は非常に高く、公立病院では利用可能なベッドや薬がありません。薬は非常に高価で、救急車も不足しています。政府は小麦3kgと米2kgの無料配給を宣言しまし

ていましたが、現在は団体自体が困窮しているため、家庭の雰囲気は日々悪化しています。彼らは家の家具や宝飾品を売ったりしていました。今はもう売るものさえありません。

医療従事者とヤバトマル県の住民は、コロナの影響を受けた人を助けるため、行動を起こしました。仮設の病院用ベッドや酸素ボンベの確保、治療薬へのアクセスの改善、予防接種キャンペーンの推進などの短期的なことに焦点を合わせて取り組んでいます。

たが不十分です。農村やスラムの人々は、家族に少なくとも1カ月分を配給するなどの方法で、HDSIからの支援を期待しています。生き残るために役立つあらゆる支援を求めています。

特定の地域の変異種は、インドの他州と種類が異なります。感染から回復した人が心停止を起こし、多くの人々が片目失明と菌茎の腐敗を抱えています。さまざまな菌株と大量の薬の服用のために起こっていると思われます。

都市部で活動するNGOはありますが、農村で活動しているNGOは見かけません。政府は機能していますが、人々はそれを活用できていません。

政府は予防接種を始めましたが、地方の村人らは、それが病気や副作用を引き起こすと考え、接種を恐れています。

NGOとして、予防接種について（正しい知識を）知らせる必要があります。しかし、感染が拡大している中で活動することは非常に困難で危険であり、思うようにできません。

5月7日

アランカー・ワルガデ（AFSMンバイ&ターネー代表）

マハラシュトラ州は、最も感染者が多い州です。その中でもムンバイとターネーのある地域は、人口密度が高いため、多くの感染者が出ています。

ロックダウンは低所得者層に悪影響を及ぼしています。何百万人もの移民労働者、自動車運転手、農民が収入を失い、食料不足の状態にあります。ほとんどの人はコロナの予防ガイドラインを意識しておらず、予防策を行っていません。

新型コロナウイルスが広がり続けるにつれ、未来をこれほど予測不可能に感じたことはありません。現在、AFSムンバイ&ターネーは、日常業務を維持し、地域にサービスを提供するために、可能な限りのことをしています。変化する現実迅速に適応する必要があることを私たちは知っています。今、これまで以上に、地域から私たちが必要と

されているのですから。

AFSMンバイ&ターネーはこれまでに、協力NGOのインド女性子ども財団とともにコロナとの戦いに取り組んできました。1年前の最初のロックダウンでは、職を失ったスラム街と少数民族の230家族に食料を配りました。警察と森林局の職員には、マスクと消毒剤を提供しました。3回のPCR検査キャンペーンも実施しました。社会的距離や適切な手洗いの重要性、コロナの症状や看護について啓発するプログラムを開催しました。ロックダウンが解除されたときには、再利用可能な3層マスク1万枚を配りました。

一方、州政府は「私の家族 私の責任」という標語を掲げて啓発行動を始めました。私たちはこれに積極的に関わり、約3千家族を月に2回訪問しました。政府が学校の再開を決めたときは、再利用可能3層マスク、石鹸、コロナ予防方法についてのパンフレットを含むコロナ安全キット5千個を提供しました。

現在の第2波に対して以下の活動が求められています。JAFSからの支援が必要です。

1. 地域への再利用可能な高品質マスクと消毒剤配布
2. スラム街と少数民族への食料提供
3. コロナ予防策の一層の啓発活動
4. ワクチン接種促進のための訪問調査と啓発

学校・事業すべてが止まった

6月7日

サチダナンド・クンバル（BSVIA代表）

カルナータカ州ビジャプールの状況も、インドの他の地域と全く同じです。人々はこのパンデミックに恐れを

なしています。私たちはロックダウンで行動を制限され、自由に外出できません。市場もすべて閉鎖されています。牛乳店とドラッグストアだけ6時から12時まで開いています。

昨年のパンデミックのときは、村の人々はそれほど怖がっていませんでした。しかし、今はとても恐れています。周りで次々と亡くなる人が出ていますが、親しい人の葬式にも参列できません。こんな状況にかつて直面したことはありません。

病院は人であふれています。ただ、人々は病院へはあまり行きません。治療費が払えないし、治療が受けられても、病院から生きて戻ってこれないというイメージがあるのです。病院では医療用酸素が足りません。

政府が移動を制限しているので、働きたくても仕事に就けないという問題にも直面しています。労働者、雇用者側双方にとって問題です。

同州にあるコスモニケタン学園は先が見通せない状況です。1月に授業が始まったと思ったら半月もたたないう

ロックダウン中に外出して、警官から制裁を受ける男性IIインド、カルナータカ州ビジャプール

できれば、困っている人たちに消毒液やマスク、食料などを配布したいと努力しているところです。

5月17日

B・R・パント（モティラム・バブルラムガバメントP・G・カレッジ教授）

パンデミックの第2波は、以前より多くの被害を与えています。多数の若者が死の淵にあります。人工呼吸器、酸素ボンベなどの必需品に関する状況は非常に危機的です。この憂慮すべき問題の解決に必要な策を持たないためですが、国内および国際機関が、グループまたは個人レベルで貧しい人々を臨戦体制で支援していることは前向きな兆候です。

私が住んでいるウッタラーカンド州の政府は、コロナと闘うために専用病院と医療施設を運営しています。

◆取られた公衆衛生行動

- ・州政府は、ヘルプラインサービスから精神的／心的カウンセリングの便宜供与を始めた。困っている市民は、フリーダイヤルで電話できる。
- ・パンデミックに対抗するため、州政府は医師採用に迅速に取り組んできた。関連して、医科大学の教員選抜が進行中。

・州政府は、遠隔相談用のオンラインポータルを通じて遠隔医療サービスの新しいイニシアチブを導入した。



コロナ募金 ご協力に感謝

JAFSが呼びかけたコロナ募金は2020年4月～21年2月の間に832件10,624,818円が寄せられました。下記の通り、アジア各国から日本に来ている留学生の生活支援に当てたほか、海外6カ国、7提携団体を通して支援活動に使わせていただきました。おかげさまで多くの命を救い、多くの人々の生活を守ることができました。改めて御礼申し上げます。

アジアでは今もコロナ感染が拡大し、これまで以上に生活困窮者が増えています。医療現場も逼迫しています。JAFSは、2021年度今も募金に取り組んでいます。引き続き、ご支援をお願いいたします。

日本に来ている留学生への生活費支援 1,840,603円（49人）

インド（RUDYA） 1,213,300円。米・小麦・油などの食料／ハンドソープなどの衛生用品配布（約250世帯）／教育支援△地域医療機関の運営支援

インド（HDSI） 1,210,877円。現金とマスクなどの衛生品・米・野菜などの食品配布（245世帯）／休業者への保障（120名）

バングラデシュ（BDP） 260,976円。マスク・ゴム手袋・10日分の食料などの配布（100世帯）／スラム街の子どもたちの教育支援など

ネパール（AFSネパール） 1,320,000円（一部助成金含）。感染予防キット配布・感染防止啓発／洪水被害者（325世帯）への米などの食料・毛布や飲み水ろ過用器などの配布／スラム街への食材配布（600世帯）／教育支援（100名）

フィリピン（KALIPi） 853,500円。米などの食糧・マスクなどの衛生品配布（100世帯）

カンボジア（KAFS） 331,440円。地域見守り・感染防止啓発支援

パキスタン（PAFS） 150,000円。米・スパイスなどの食料支援（12世帯）／学用品配布



コロナ禍でも、いや、コロナ禍だからこそ ろう学校の生徒と手話で情報発信

タイ シリニー・シリフォンファン（TAFS代表）

コロナから身を守るための聴覚障がい者向け動画を一緒につくった、セサティアンろう学校のパナダ・ウォンチャンタ校長からいただいた手紙です。

× × ×

コロナ感染拡大の中で、最初の頃は正しい情報・正しくない情報がいりまじり、何を信じたらいかわからない状況でした。また、マスク着用で、耳の不自由な生徒たちは、今まで以上に新しい情報を得る機会が減ってしまいました。コロナに関する錯綜した情報は混乱を招き、聴覚障がい者の生命の安全に深刻な影響を及ぼします。

シリニーさんに、この問題を解決するためにどのようなことができるのか相談しました。正しい情報を得るために、タイの報道機関の虚偽情報共有プ

ログラム「Sure Before Share」のプログラムマネージャー、ヨワレさんにも協力を頼みました。彼らは、各主題に関する専門家による記事や動画を調べてくれ、私たちは一緒に手話でビデオ作成について話し合いました。生徒たちが最新の情報にアクセスする機会をつくり、自分を守るための正しい知識と新しい生活様式を選択できるように助け、彼らが周囲から多くの知識を得る機会を設けるためです。

私たちは連携し、コロナから自分自身と周囲の人々を安全に保つ方法を教育するために、情報を収集・選別・編集して共有の動画をつくりました。手話通訳者と一緒に、生徒自身が動画の開発に参加しました。写真。

この取り組みは、全ての聴覚障害者にとつとてとても有用です。今後このような協力体制を進展させ、より多くの人が必要とされ喜ばれるような活動を共有していきたいと考えています。

変異型が猛威 また都市封鎖

●ネパール 5月1日

パダム・シユレスタ（AFSネパール理事）

ネパールでは1月27日からワクチン接種が始まりました。インド産のコロナシールド（アストラゼネカ開発）ワクチンと、中国シノファーム製ワクチンの供給を受け、医療従事者、公務員の次に老人、障がい者へ接種が行われています。幸い私の家族は無事に接種を終えることができました。

しかし、インド型変異ウイルスの急拡大に伴い感染者数が急激に増え、4

月29日から再びロックダウンが実施されました。昨年9月から再開していた定期航空便が再び止まり、すべての往来が停止されています。

このようになる前、首都のカトマンズではコロナに対して二つの意見が存在しました。一つは、ウイルスの存在を否定し、危険性や死者数などの情報を信じないというもの。もう一つは、ウイルスの脅威を理解し、政府の予防対策に従い、感染者は速やかに隔離するべきだという意見です。

前者の人々は、変異型ウイルスが従来型よりもはるかに強い感染力を持ち、発症すると重症になることを理解していないようです。

インドからの帰国者が増えているため、病院はICUを増やしています

理解が遅れる 貧しい人たち

●バングラデシュ

アムブロス・ゴメス（BDP代表）

私は2月11日と4月11日にワクチン接種を受けました。接種後、特に副反応は見られませんでした。

が、あつという間に病床に余裕がなくなりま。それなのに、公共の場でマスクを着けていない人が見られます。ロックダウンしか感染を防ぐ手立てはなさそうです。また暮らしが圧迫され、追い詰められる人々が増えるのかと、気が気でなりません。

政府は、40歳以上の人なら誰でもワクチンを接種できるとしています。40歳未満でも医師や看護師、警察官、教師、ジャーナリストは接種できます。接種に関する情報は、テレビや新聞で定期的に公表されています。

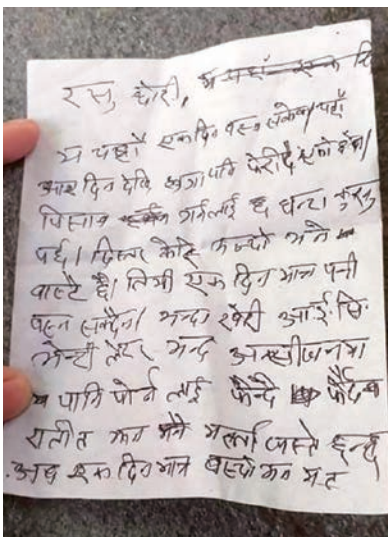
政府は、総人口1億6756万人の70%に接種を計画しています。4月22日までに約50万人が2回の接種を終えました。ワクチンはインドで製造されたアストラゼネカ製です。また、ロシアが、バングラデシュでロシア製ワクチンを製造する許可を与えました。

貧しい人々も無料でワクチンを受けることができますが、多くの人がワクチンの必要性を感じていません。彼らは日々屋外で働いているので、日光によってウイルスが死滅すると信じているからです。

ネパールで使うテキストなどのデザイン、印刷をいつも頼んでいる男性がコロナで亡くなられたとの知らせが5月11日、現地から入ってきました。遺品の中に、死の病床から娘さんにあてた手紙がありました。写真。翻訳してご紹介します。病院の医療体制が崩壊し、患者の増加に追いついていない状況が伝わってきます。

（JAFSスタッフ
熱田典子）

父、死の床から手紙



娘よ
私は今、少しの間も座ることすらできない。ここに入院して以来、着替えをすることなく過ごしている。トイレをしたいと思っって呼んでも、6時間待たなければ小便さえできない。看護師に何か頼んでも、気にさえかけてもらえない。君なら一日もこの場にいることができないようなどころだ。

ICU（集中治療室）といっ

でも、酸素ボンベは酸素が来たり来なかったりの粗悪品。夜はさらに混乱しており、生きていく心地がない。今、生きていても、ここに一日でも長くいると死んでしまいうさだ。本当につらく厳しく、ここから何としても出してほしい。家に戻った方が回復するに違いない。

他に何も求めない、何としても、ここから出しておくれ。

父より

銀行つくり地域の農業自立に尽力

AFSビジャプール会長 K・A・パティルさんの死を悼む

JAFS事務局長
村上 公彦

5月2日、アジア友の会（AFS）の国際ネットワーク活動のインド側の重要なメンバーの一人であったK・A・パティルさん（AFSビジャプール会長）が逝去されました。

一報が入って来たのは5月3日の午前2時頃でした。驚きました。パティルさんがコロナにかかったと聞いたの

が4月28日頃でした。一週間も経たずに亡くなったのです。今、インドではコロナが猛威を振るっていますが、その病状の進行の速さに驚きました。

彼は1952年生まれ。ビジャプール近郊のウクリ村の出身で、家は代々村長（地域の支配者）をしていた家系です。これまで村長は従兄のA・M・

パティルさんが継いできています。我々はビジャプールを訪問するたびにウクリ村のお宅に招かれていました。

二人とも1991年にビジャプールのクンパールさんの紹介でJAFSを知り、趣旨に賛同してJAFSとかかわりを持つようになりました。その結果、住民の意識改革を図りながら村の開発に力を入れて、井戸建設、下水道の建設、ごみの収集、中学校の建設、地域の医療改善にと診療所の建設などに尽力してきました。JAFSも必要に応じて支援してきました。封建的慣習が色濃く残るインドの農村部で彼ら村の有力者のこうした活動は最初、村人にとっては信じがたく、通常では考えられないことであつたようです。

特筆すべきは、95年、JAFSの地域自立のアイデアをもとに貧農救済のために農業信用組合（PACCS）を設立し、貧農の生活改善と収入の確保に尽力したことです。農民が無利子で種や肥料、農具を手に入れることができるようにしたのです。おかげでこの組織は、カルナータカ州でも指折り

の、地元根差した農業信用組合に発展しました。州政府もこの事業に一目置くようになり、支援協力体制（利子補填てん）を組むに至りました。

99年、JAFSの招きで来日し大阪に数日間滞在し、JAFSのメンバーとも交流しています。2005年、K・A・パティルさんはA・M・パティルさんに代わって頭取に就任しました。19年、ウクリ村の農業信用組合の本部を訪問したとき、K・A・パティルさんが職員を集めて「この銀行はJAFSからもらったアイデアをもとに5千^{ルピー}の手持ち金と^{かはん}靴一つで始まったのです。30年経った今、おかげで何とかここまで来ました（年間取扱額約3億ルピー）。JAFSに感謝しています」と言われました。JAFSが目ざす地域自立の運動の成果が一つの現実となった例です。うれしいことです。ウクリ村の人口は現在1万2千人です。

彼はこのAFS運動をビジャプールの各地に広げるべく、19年にAFSビジャプールを立ち上げ、会長に就任したばかりでした。本年2月に開かれたインドAFS全国大会（中部インド、ナグプール市にて開催、12地区参加）に出席したばかりでした。これからという時に一人のAFS志士を惜しくも失いました。

ここに謹んでパティルさんのご冥福を祈り、心より哀悼の意を表します。



AFSビジャプール会長就任式に臨んだ
パティルさん（右）＝2019年7月19日

一緒に追ったコミュニティの夢

わが妻、ティルクマリ・プンをしのぶ

藤井 牧人
（在ネパール）

ネパールで民族衣装の布を活用した

カバンやランチョンマット、コースターなどを近所の女性らと一緒に作り、自給的な農業を営んでいたティルクマリ・プンさんが、コロナに感染して亡くなりました。ティルさんは当会元会員、藤井牧人さんと11年前に結婚。その作品の一部は、大阪のJAFS事務局でチャリティ販売しています。ティルさんのご冥福をお祈りするとともに、藤井さんから届いたお手紙を、要約して紹介します。

◇

インド、ネパールのコロナ感染者は今年、いったん減りましたが、4月から再び急増。僕の妻、ティルクマリ・プンも、同月末に感染が確認され、わずか8日後に亡くなりました。52歳でした。

5月7日。隔離室でチューブや機材をつながれた妻の口を僕は、水をスプーンですくって湿らせました。何度か続けると「もういい」と手を振り、満足そうなかわい顔を浮かべました。でも10秒したら、また「水がほし



民族衣装の布でつくった作品を点検するティルクマリ・プンさん

2019年4月

に妻の呼吸は止まっていた。隣のベッドのおばちゃん「水、水、水、水」って言っていたけど、誰も気付いてくれなかった。妻の目を閉じてもらい、ようやく、この10日間が一番心地良くなった。表情になりました。最期くらいずっと手を握っていたかったです。「早く早く、死にそう」とあがいていた姿が思い浮かび、僕は今も苦しい。

住まいから20kmほど離れた隔離病棟でした。当初、ベッド不足と回復傾向にあるからと、地元病院では入院を拒否されたのですが、人づてで入院しました。

軍キャンプの指定場所で民族集団の

代表2人と私だけが見守り、火葬しました。みんなに愛された妻らしくない最期でした。

僕たちは、2004年にアジア学院（栃木県の農村指導者養成校）で出会いました。「ネパールで農民として暮らしたい」と、カトマンズの南西180kmほどの、インドとの国境に近いカワソティに移住しました。野菜と稲を作り、在来豚、ウサギなどを飼う複合農業を営んで暮らしています。

妻は農閑期には、民族衣装の布を使ったコースターやカバンなどを作って販売し、生計をたてていました。数年前から近所の女性たちが加わり、製作品を増やしました。わずかですが、近所の女性らが収入を得ることで、小さな喜びとなったように思います。仲間の女性たちは、突然のことに驚き、別れを惜しんでくれています。近隣だけで妻を含めて3人が亡くなりました。

僕たちは、10歳と5歳の2人の女の子を里子として引き受けています。10歳の子は10人家族、5歳の子は山岳部の6人家族です。でも、単に貧しいから里子に出すだけではない、と僕は考えています。「親がなくとも子が育つ」という、ネパールならではの地域社会もあるのです。実は妻は、この5歳の里子を迎えに行った直後に具合が悪くなりました。10人くらい子どもを育て、小さなコミュニティを作ることが僕たち夫婦の夢でした。

村人が協力して道も整備

以前に村にあった井戸は壊れてしまい、十分な水を得ることができませんでした。また、その水も安全とは言えませんでした。しかし、村の力だけでは新しい井戸を作ることができませんでした。この度ご支援いただいたことにより、干ばつ時にも心配せずに水を得られる井戸が完成しました。皆が安全に使えるよう、井戸は頑丈な作りになっています。とても喜んでいきます。井戸を作るときには、多くの村人が協力して井戸周辺の道の整備なども行いました。

【寄贈者】スリランカサルボダヤ友の会 様



東部州アンパーラ県パディヤサラワ郡タラピタオヤ西村 受益者…156人（30世帯）
井戸の形式…露天式（深さ約6m）

【寄贈者】大阪府立天王寺高等学校 FAN 様

植林の大切さも話し合う

東部州アンパーラ県ダマナ郡モラガハパラマ村 受益者…287人（25世帯）
井戸の形式…露天式（深さ約6m）



井戸ができた村は、深刻な乾燥地域である上に、昨今の気候変動で干ばつが頻発しています。村人たちは生活用水を得るのがとても難しい状況に置かれていました。今までは生活のために森の木々が伐採され、それが地域の乾燥を進め、水を得ることをさらに難しくしていました。井戸ができたことで、水の大切さとともに植林の重要性についても村人と話し合いました。小学校などを中心に環境保全のための植林を開始。環境への意識も高まってきています。

【寄贈者】釜下 金郎 様

今まで村には、深さ18mの古い井戸がありましたが、そこまでの道路がないため車やバイクで行くことができません。毎日泥だらけの道を1時間半かけて歩き、約2ℓの水をくむために何往復もしなければならませんでした。このたび井戸を寄贈いただき、もう長い距離を歩かなくても安全な水を得ることができるようになりました。贈っていただいた井戸は、集落の誰もが使える井戸として、近隣の農民を中心に約80名が毎日使わせていただいています。

誰もが使える井戸が村に



ヌエバエシハ州カピアオ町サンカルロス村イバヤ集落 受益者…80名
井戸の形式…ポンプ式（深さ約33m）

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

なくそう貧困。命の水を！

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■（2018年4月現在）

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円（パイプライン=25～150万円）
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで
井戸ができた村

干ばつのときでも安全な水

この村は、乾燥地域に位置しています。さらに昨今の気候変動によって干ばつが頻繁に起こります。村の人たちは生活用水を得るために、とても困難な状況に置かれていました。井戸ができたことで村人たちは「干ばつのときでも安全な水が飲めるという『安心』」を得ることができました。子どもたちやお年寄りも、水が原因の病気に悩まされることがなくなり、健康でいられることを、とても喜んでいきます。大切にに使わせていただきます」と感謝しています。

【寄贈者】ファンシープランニング 様



東部州アンパーラ県ウハナ郡ワダカンブラ村
受益者：126人（22世帯） 井戸の形式：露天式（深さ約6m）

【寄贈者】富永 信明 様

東部州アンパーラ県アンパーラ郡ナマロヤ村 受益者…145人（25世帯）
井戸の形式…露天式（深さ約6m）



農業にも役立ち生活が向上

この地域は乾燥地帯で、水が十分得られません。農業が主な産業ですが、水が十分でないため、収入につながるような規模では行えません。人々は経済的に厳しい生活を送っていました。そこで本会の現地提携団体が村で調査をし、村の人たちとも相談の上、現在の場所に井戸を設置することになりました。それほど深くない位置で良い水脈から水を得ることができ、村の中で安全な水がくめるようになりました。農業にも役立ち、生活の向上が期待できます。



◀◀図説 村に井戸ができるまで

地元の協力を確認して着工

JAFSの呼びかけに賛同して、皆さまがアジア各国の村々に寄贈してくださった井戸は、実際にどのようにして出来上がるのでしょうか。カンボジア、タケオ州トレアン郡の村に井戸建設が実現したときの経過を基にご紹介します。

写真①は、村の山頂に11世紀に建てられたプノンチソーというヒンズー教寺院から見た景色です。乾いた茶色い大地が、地平線まで広がっています。村人たちは、寺のため池などを生活用水として使っていました。同②。遠い水場まで歩く毎日の水くみに、多くの時間を費やさなければならず、女性や子どもたちにとって大変な重労働でした。その水は不衛生で飲料に適しません。多くの人が、下痢、腸チフス、肝炎など、水が原因でかかるさまざまな病気に悩まされてきました。

「安全な水を身近に得ることができれば井戸を建設してもらえませんか」

JAFSの現地提携団体KAFS（クメールアジア友の会）に村から要請が届きました。小規模な農業や日雇い仕事で生活している村人だけで井戸

多くの人が手掘りし仕上げ

そして、工事が始まりました。井戸を掘りやすく、村人が使いやすい建設候補地を、相談して選びまし

をつくることは難しいです。KAFSのスタッフが村を訪れて状況を確認し、村人とともに、井戸建設に向けた具体的な計画を練りました。同③。現地だけでは建設資金の捻出が難しく、JAFSにも支援要請が届きました。JAFSは日本国内で井戸寄贈を申し出てくれる方を募り、その寄付で建設できる見通しがつきました。建設にはもちろん、村の人たちの積極的な協力が欠かせません。また、井戸を多くの人が末長く安心して使えるためには、完成後も清潔に管理することが大切です。村に組合をつくり、建設のための労働力と、井戸を設置する土地、砂など一部の材料を提供することと、維持管理のための費用を負担することを約束してもらい、調印式をして書面を取り交わしました。同④。

た。専門業者が掘削機で地下15〜40mまでボーリングしてパイプを通し、水をくみ上げました。同⑤。

げました。そしてパイプをカットし、井戸の中に水を貯めました。

地上の井戸の周辺には、水を使いやすいようにプラットフォームを建設しました。石を並べ固めて土台をつくり、鉄筋で固定した後、セメントを流し込みました。同⑧。

ネームプレートには、寄贈者のお名前や完成年など記載しました。同⑨。なお井戸は地下水位の下がる乾季に掘ることが多く、ご寄付いただいたてから完成までに半年〜1年かかります。



2020年の活動報告 みなさまのお力で 達成できました

さらに各国から▶ 要請が来ています 2021年の支援事業

2020年度は年間を通して国内外ともコロナ禍に見舞われましたが、皆さまのお力により、生活困窮度をいっそう増すアジア各国や国内留学生への支援を最優先で実施できました。アジアでの従来の支援活動は、現地情勢に

応じ必要不可欠なものは実施、それ以外は中止・延期としました。2021年度もコロナ収束が見通せない中、各国から様々な支援要請が来ています。アジアの人々と連携し、貧しい人々の経済的自立に向け取り組み続けます。



フィリピン・アンティエケ州パンダン町で、コロナ下で困窮する障がい者に救援物資を配布

農業人材育成や障がい者支援 貧困対策事業

2020年度の小規模産業育成・職業訓練事業は次のようでした。

インド・マハラシュトラ州アムラワティ県の女性グループの養鶏事業は、コロナの影響により実施できませんでした。

カンボジアでは、農村世帯の所得向上を目指した小規模零細事業への資金提供は、コロナの影響により実施できませんでした。

ネパールではシンドウパルチョーク郡の地震被災地の継続的な農業振興活動に向けて、人材育成を行うために、村の若者に対して農業専門高等学校への奨学生支援をしました。

フィリピン・アンティエケ州パンダン町の障がい者に対し、通院や福祉機器運搬の協力、またコロナ下での困窮に対し救

援物資配布をしました。また障がい児童の卒業後の自立を目指し、再生プラスチックエコブリック製造機材を支援しました。

フィリピン・ソルソゴン州では農漁村の所得向上を目指し、マングローブ植林地の整備により森づくりを継続しました。農村地域では、若い世代の生計につながることを目標に、有機肥料などの研修をしました。

保健衛生と医療を支援

インド・マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営を支援し、コロナ禍における地域医療と感染防止啓発を実施しました。週1回の医者による診察と、看護師常駐の体制が実現できました。

ネパールのシンドウパルチョーク郡、カトマンズ郡、ノールパラシイ郡の農村女性を対象に、健康維持のための講習、生理用ナプキンの配布を予定していましたが、コロナにより実施できませんでした。今後は現地でナプキンを製作するために、ミシンのみ支援しました。

提携NGOの運営助成

JAFS現地提携団体の運営とマネージメント強化のために、RUDYAとHDSI（インド）、KAFS（カンボジア）、SARVODAYA（スリランカ）に運営費を助成しました。

植林や環境教育で未来づくり

環境事業

インドネシア北スラベシ州タリセ島で予定していた果樹の植林は、コロナのため中止しました。またアチエ州では、防潮林マングローブの植林と、小中学校での環境教育を予定していましたが、コロナにより延期しました

（公益信託地球環境基金助成）。ネパールで森を守り憩いの場を創るため、1村に183本、3校に150本を植林しました（緑の募金助成）。バングラデシュの4県4校で、学校周辺に2028本を植林しました（連合愛のカンパ中央助成）。フィリピン・アンティエケ州パンダン町で、水源の森保全のための苗木づ

グリーンスカウト運動 セミナーや水源林植林

1986年に発足したグリーンスカウト運動（環境保全市民運動）は、現地提携団体を中心に、地球環境保全に関する様々な啓発活動をしています。インド・マハラシュトラ州で、グリー

ンスカウト運動の継続に必要な支援をしました。

ネパールでは、各地でのグリーンスカウト運動と、小学生の環境セミナーがコロナにより実施できず、3校の児童に環境啓発教本を配布しました。

フィリピンでは、水源涵養林やマングローブの植林、校内の農園実習を予定していましたが、コロナの影響

水事業

パイプラインと 井戸37基を完成

2020年度はアジア5カ国（インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、フィリピン）の農村地域32カ所に、飲料水の井戸およびパイプライン計37基を完成することができました。遠方への水くみを強いられいた人々の生活を改善でき、コロナ感染予防のための衛生環境改善にもつながりました。

しかしコロナの影響により、建設の中断が多発し、計画通りに完成できなかった井戸もありました。



ネパールで、環境整備のため学校に植林する小学生たち



2020年度夏季募金によりインド・マハラシュトラ州アムラワティに完成した井戸

子ども事業

アジア里親の会（教育里親制度）により、アジア5カ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の生徒423名に対して教育資金を支援しました。

5カ国の里子423人に教育支援



学校の運営・設備支援

インド・カルナータカ州ビジャヤプーラ県およびマハラシュトラ州ガッチョリ県において、日印友好学園コスモニケタンおよびバダトラ小学校の運営、および教材を支援しました。

建設は、コロナにより延期しました。バングラデシュで学校のトイレ再建を予定していましたが、コロナにより延期しました。

HIV/AIDS支援

インド・タミルナードゥ州ディンディガル県とナマカル県で、HIV/AIDS



▲コロナ下の休校中、村で訪問授業をするインド・パダトラ小学校の先生と生徒

元氣そうな様子のネパールの教育里子たち

IDSに感染した児童と家族2世帯を支援しました。

ネパールで栄養指導

ネパール・タライ平野の低所得地域の小学生約210名に、ロックダウン解除期間に給食支援をし、子どもたちの栄養状況を改善できました。学校での栄養指導はコロナにより実施できませんでした。栄養士育成の対象者2名を選しました。

スラムの子どもたち

インド・マハラシュトラ州ナグプールのスラムの子どもたちに、文具・教材の配布と教育指導を行いました。フィリピン・マニラ市内のストリートやスラムに暮らす、経済的に厳しい状況におかれた子どもたちが教育を受け自立できることを目指して、就学支援をしました。また生活習慣・衛生環境改善などの啓発プログラムを実施しました。

ワークキャンプとプロジェクト視察

ワークキャンプはコロナにより全て中止、うちイオン労働組合連合会では、コロナ後の活動に向けてカンボジアとオンライン会議を実施しました。プロジェクト視察は、ネパールに1回行いました。

2021年度 貧困対策 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	HDSI	マハラシュトラ州	村の女性の雇用促進を旨とした縫製職業訓練【120万】
	RUDYA	マハラシュトラ州	ムスカ村唯一の診療所において、住民のために医療基盤体制を強化し、運営を継続するための支援をする【108万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ県	山間農村の保健衛生向上、産婦人科充実の支援と、性に関する女性の意識向上や布ナプキン普及による女性の保健状況改善【20万】
		ルンビニ県、バグマティ県	農家の自立促進・農業発展のための(女性)農業組合の設立、農業の担い手育成のための農業専修高校・農業大学への奨学支援【30万】
カンボジア	KAFS	タケオ州	農村の所得向上・貧困緩和のため、小規模零細事業の支援【24万】
フィリピン	AFS-Pandan	アンティーケ州	障がい児童が勉強して将来自立できるよう、パンダン障がい者協会を通して通学や職業訓練などを支援【50万】
	AFS-Sorsogon	ソルソゴン州	農漁業で生計を立てる貧困層の人々のために、漁場となるマングローブの植林や有機農業の推進を行う【50万】

2021年度 環境 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
スリランカ	SARVODAYA	全域	伐採による森林減少と乾燥地域拡大に対し、森林保全・再生のための植林・環境保全教育【30万】
ネパール	AFS-Nepal	ルンビニ県、バグマティ県	森林伐採が進む中、コーヒー植林のための苗木づくり、圃場整備のための高木植林活動、および森林保全整備を支援【350万】
			燃料を薪に頼り森林破壊が深刻なため、家畜牛の糞を発酵し、生活燃料にするためのバイオガスプラント設置を支援【70万】
		ルンビニ県、ナラヤニ県、バグマティ県	小学生への環境セミナー、ごみ対策など地域環境保全活動の推進を支援【50万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県	支援学校内に、環境保全と生活のために植樹し、環境と生活に関する知識向上を図る【47万】
フィリピン	AFS-Philippine	全域	焼畑や伐採で水源林が破壊され、土砂崩れも招いているため、水源林や、川の土手を保持する竹林を、植林再生【50万】
インドネシア	AFS-Aceh	スマトラ島	津波被災地バンダアチュでマングローブを湾岸部に形成して防潮・防災し、また住民と庭園都市形成を目指す【79万】

2021年度 水 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容【必要資金(円)】
インド	AFS-Lonara / RUDYA / HDSI / BSVIA	マハラシュトラ州、カルナータカ州	井戸建設【1基60万×9基】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンポントム州	井戸建設【1基28万×15基】
スリランカ	SARVODAYA	全域	井戸建設【1基22万×10基】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ県、ルンビニ県	井戸・パイプライン建設【井戸1基17万×5基・パイプライン1設備30万×20設備】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ジャマルプール県	井戸建設【1基55万×5基】
フィリピン	KALIPI / AFS-Sorsogon	全域／ソルソゴン州マトノック町	井戸・パイプライン建設【1基33万×12基】



日本の放置自転車でアジアの暮らし改善

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に、大阪府内の放置自転車を修理・再生し、海外の子どもたちに贈ってきました（競輪の補助事業）。海外で遠くの学校に通う子どもに自転車を贈ることで、教育環境向上にも寄与し、国際交流の絆が深まります。放置自転車のリユースにより大阪府内の環境負荷が軽減され、資源循環型社会に貢献できます。

2020年度は堺市、泉佐野市、大阪市、泉大津市、高石市、東大阪市の協力により自転車520台の提供を受け、全てカンボジアに贈りました。05年の事業開始以来の寄贈数はアジア・アフリカ10カ国に、自転車計3万2670台、車椅子2台です。

贈られた自転車は、子どもたちの通学、コミュニティワーカーや医療従事者の巡回、貧しい農民、環境保全の活動に従事する人々などに活用されました。カンボジアで自転車を受け取った生徒は、継続して教育を受けられるようになりました。家族と自転車を共有し、農作業などの仕事にも活用されています。移動時間短縮が、女性の社会進出や生活向上へもつながっていますが、リサイクル品を取り巻く環境の変化から、今年度をもって本事業を終了することとなりました。

サイクル・エイド事業

罹災者支援事業

震災・台風被災の復興支援



フィリピン台風ユリシーズ被災者への支援物資の配布準備をする現地ボランティア

2015年のネパール中部地震被災地からの復興と、持続可能な地域づくりを目指し、シンドゥバルチョーク郡において、外務省「令和1年度日本NGO連携無償資金協力（N連）」から資金供与を受け、揚水システム設置と農業基盤づくりを行う大規模な復興支援事業の2年目事業を実施し、昨年完成した揚水システムの本線から東側の525世帯に配水するための給水用貯水タンク5基、農業用貯水槽6基およびパイプ敷設を完成しました。引き続き「令和2年度N連」から資金供与を受けて3年目工事を開始しました。

東日本大震災について、パナソニックグループ労働組合連合会と共に被災地視察を予定していましたが、コロナのため中止しました。

九州豪雨による被災地支援の要請を熊本県益城町から受け、復旧作業に必要な長靴などを支援しました。

フィリピンでは、11月にコロナ禍中のマニラ周辺を襲った台風ユリシーズによる被災者に対し、支援物資を配布しました。

2021年度 子ども 事業計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
インド	SSH	タミルナードゥ州	HIV/AIDSの影響下にいる家族の生活向上支援【21万】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の教育センター（チャイルドアカデミー）の子どもの就学支援、給食・教材支援【20万】
ネパール	AFS-Nepal	バグマティ県	地震後の安全基準に則った校舎再建の支援、新教育指針に沿うPCなど学校整備支援【250万】
		ルンビニ県、バグマティ県	学校給食運営の一部補てんと栄養教育による、子どもたちの健全育成。ネパール人による栄養指導を可能とする人材育成【150万】
バングラデシュ	BDP	ボリシャル県、ネトロコナ県	小学校21校のトイレが老朽化し不衛生なため、感染症を予防すべくトイレを再建【100万】
ラオス	LPRYU	ポンサーリー県	教育スポーツ省管轄下の中学校の学生寮が老朽化。生徒たちが安心して生活や学習できるよう寮を再建整備【500万】
フィリピン	ASI	マニラ市	路上生活から強制退去となり、新たな地で暮らし始めた家族に対し、子どもと保護者の教育、栄養改善、職業訓練、収入確保を支援【28万】

2021年度 子ども 事業 アジア里親の会 計画

国	提携団体	実施地域	内容・意義【新規要支援里子数】
インド	RUDYA	マハラシュトラ州	少数民族の子が通う日印友好学園パダトラ小学校の教職員給与など運営支援。書籍・設備拡充を支援【45人】
	BSVIA	カルナータカ州	貧農の子どもに教育機会を与える日印友好学園コスモニケタンの運営支援と学習環境の整備【10人】
	SSH	タミルナードゥ州	貧困層およびHIV/AID感染の家庭の子どもが就学できるよう、制服・教科書代、学校運営費などに充てる【7人】
	AFS-Nagpur	マハラシュトラ州	スラム街の子どもの就学継続のための啓発活動と、給食や学用品の支援【10人】
カンボジア	KAFS	タケオ州、コンボンチュナン州	農村の子どもが1人でも多く学校に通えるよう、教科書・学用品および課外活動や学校運営の支援【10人】
ネパール	AFS-Nepal	第三州、第四州	農村貧困層の子どもが1人でも多く学校に通えるよう、就学費や学校運営費などを支援【10人】
バングラデシュ	BDP	ガジプール県、ジャマルプール県	1人でも多くの子どもが学校に通えるよう、学校運営費と就学費を支援【20人】
フィリピン	ASI	カビテ州、マニラ市	路上から新たな地に移住した子どもの教育支援と、家族への教育・栄養改善・職業訓練・収入確保を支援【3人】

2021年度 罹災者支援 事業計画

国	プロジェクト	実施地域	内容・意義【必要資金(円)】
ネパール	ネパール中部地震災害復興支援	シンドゥバルチョーク郡	2015年の地震被災地の復興と地域作りのため、外務省「日本NGO連携無償資金協力」の資金供与を受け「安定的な農業地域を目指した水インフラ設置と農業生産向上の基盤作り」事業を実施【4800万】
アジア各国・日本	新型コロナウイルス感染症対策支援	アジア各国・日本	ロックダウンなどにより困窮の進むアジアの貧困層に対する生活・保健衛生の支援と医療補助。日本国内の留学生などが在留アジア人の生活支援【1期300万、2期以降は状況に必ず】
フィリピン	台風ユリシーズ被災者支援	リサール州	2020年11月の台風ユリシーズの被害に加え、コロナ禍により生活を営むすべを失った被災者の生活復興支援【100万】
日本	東日本大震災復興支援	宮城県	災害記憶の風化を防ぎ復興支援をしてきた区切りとしての評価。特に名取市にて新居住地の環境づくりのために実施してきた植林活動とスタディツアーの成果確認【20万】

ネットワークの絆をオンラインでも維持強化

国際交流 事業

2020年度は、第30回アジア国際ネットワークセミナーのスリランカ開催を予定していましたが、コロナのため中止しました。その代わりとして2020年11月と2021年2月にオンライン会議を行い、コロナ禍における各国提携団体の近況報告と情報交換を行いました。これによりコロナ下においても、AFSネットワーク機能の維持・強化を推進することができました。



AFSネットワークで初の国際オンライン会議

アジア草の根の自立・連帯基金である「アジア・フレンドシップ夢基金」は、右記のアジア国際ネットワークオンライン会議にて、基金拡大に向けた政策や課題を共有し、諸報告をしました。

「アジア・フレンドシップ財団」では、インド・タイ・日本の実業家を中心にマイクロレジットの国際版を行う計画ですが、コロナのため延期しました。

スタディツアー中止

コロナの影響により全てのスタディツアーを中止しました。

職員研修と奨学金支援

本会のネットワークを将来担うアジア各国提携団体の職員の研修・育成のため、奨学金支援を例年行っています。派遣先の一つであるフィリピンのアジア社会科学院（ASI）の地域開発コースはコロナにより開校されなかったため、派遣中止となりました。インド提携団体HDSIの後継者1名に対しては、ナグプール大学社会開発学科の学費を支援しました。

海外ボランティア研修制度については、コロナにより募集をしませんでした。

国内での普及啓発 事業

国際協力PRとチャリティ活動

国内での2020年度の活動は、コロナ感染拡大状況および緊急事態発令により、多くを制限せざるを得ませんでした。しかしその状況下においても可能な限り、広く一般の方が本会の活動に参加できるよう、様々なチャリティ企画を実施しました。

恒例の住道駅前のJAFSチャリティバザールは、コロナのため中止しました。5年目となったアジア・チャリティフェスティバルは、昨年引き続き公益財団法人大阪国際交流センターと共催。コロナ感染防止のため、入場者数、飲食の来店やステージ内容を制限して実施しました。映画上映会や留学生によるプレゼンテーションを初めて実施し、在関西のアジア系市民との交流を深める多文化共生チャリティイベントとして221名の参加がありました。

地区活動やプロジェクト支援グループでも、支援や広報のため、感染対策をとりながら、ウォーカソン、コンサートなどのチャリティイベントを実施しました。

国際理解教育講座として、小学校、高校、大学や企業等のべ8カ所に対し



アジア・チャリティフェスでの留学生パネルディスカッション

国際理解に関して講義しました。学校からの委託授業も受け入れ、1校に対して講義を実施しました。

例年毎月実施するJAFSぞうすいの会は、コロナ感染状況に鑑み可能な月のみ対策を施しながら開催し、また地区活動の場も併せて、アジアでのプロジェクトを報告しました。プロジェクト理解やアジア社会の現状理解を促進しましたが、予定していた活動がコ

ロナの影響で急遽中止となる事が多発しました。

インターシップ生5名を受け入れ、海外プロジェクト後方支援やファンドレイジング・広報事業の実習を通して貢献しながら、国際協力活動と市民運動に関して学びました。

アジア市民大学では、感染拡大による延期を繰り返しながらも、アジアの国の文化理解に向け、専門家による講義を10回開きました。

昨年につき「日本語スピーチコンテスト」を予定していましたが、コロナのため中止し、コロナ緊急支援募金により支援した留学生と支援者との交流会を実施し、留学生17名の参加を得ました。

法人賛助会セミナーおよび社員クラブはコロナのため開催しませんでした。アジア留学生支援活動の一環として、コロナ緊急支援留学生&支援者交流会の開催に参画しました。

今後JAFSが何を大切にいかにかに活動すべきかを見直し考える機会として、SDGsセミナーを開催し、国際協力の専門家や実践者からのSDGsに関するオンライン講義を5回に渡って実施しました。

「今、地球は危ない」をテーマにしたグローバルコミュニティ・カレッジを3回開催し、グローバル化した地球で起きている様々な問題について解決の糸口を共に考える勉強会の場とし

2021年度 国際交流 事業計画			
国	プロジェクト	実施場所	内容・意義【必要資金(円)】
タイ	アジア国際ネットワークセミナー	バンコク	1990年以来毎年、AFSネットワーク関係者を中心に、「貧困なき一つなるアジアを目指して」をモットーに貧困削減のため話し合う。秋にバンコクにて開催予定【400万】
日本・アジア各国	アジアユースサミット(AYS)	日本・アジア各国(オンライン)	日本とアジアの高校生のための国際会議を8月にオンライン開催。「コロナ禍で私たちにできること」をテーマに地域を良くするプロジェクトづくりやワークショップを通じ、国際的視野を養い、国内外のユースのつながりを形成し、国際活動の担い手を育成【200万】
フィリピン	ASI 地域開発コース支援	アジア社会科学院(ASI)	農村の社会課題を解決し、貧困なき国作りをする次世代育成のため、2名を大学院大学ASIの2カ月の地域開発コースへ派遣。【30万】

●…JAFS国際協力基金…●

「地球幸せ募金」貯金箱式募金	栄養失調に苦しむ子どもたちの栄養改善を目的とした給食基金に充てる。または、今年度プロジェクトのいずれかを支援する
「アジア井戸募金」募金箱設置	各家庭や店などに募金箱を設置し、井戸建設支援に充てる
「アジアフレンドシップ夢基金」募金	アジア18カ国の草の根の人々と共同で、「アジアフレンドシップ夢基金」を募り、アジアと世界のより困窮する人々への支援金とする

感染対策を施したぞうすいの会で在日ベトナム人によるお話



した。

活動情報誌「アジアネット」を年4回発行し、事業報告や海外情報について広報しました。ホームページは、発信情報の魅力向上、寄付・会費クレジットカード決済の導線改良、などを目的として3月にリニューアルしました。またSNSは従来からのフェイスブックの他に、新たにインスタグラムとYouTubeを開設し、活動ニュースやイベント情報、アジア文化情報などを随時発信しました。

また各種関係団体と連携し、関西のNGO活動を推進し市民活動の社会意義を広げる活動に協力しています。関西NGO協議会の副代表、国際協力N

2021 年度 社員総会報告

公益社団法人アジア協会アジア友の会第10回社員総会を下記の通り開催しました。本総会は、新型コロナウイルス感染拡大対応のため、出席者を限定し、議決権行使書の提出により対応しました。

篠原会長がオンライン出席のため、定款に基づき、櫻井副会長が議長となり議事を進行しました。

現社員数202名の内、出席社員数172名（会場出席者・オンライン出席者・議決権行使書提出者の合計）であり、定足数102名を充足し、総会の成立を宣しました。

日時: 2021年6月12日(土) 14時～ 14時30分

会場: 肥後橋官報ビル 8階会議室（大阪市西区）

議案 I: 決議事項

第1号議案

「2020年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)、同附属明細書及び財産目録の承認」の件

第2号議案

「役員の選任」の件

上記の決議事項第1号議案については、財務担当の上

野理事より詳細な報告がありましたが、特に質問や意見は無く、すべて承認されました。

第2号議案に関しては富松理事が審議を進め、選挙管理委員2名選任のもと、まず留任監事の候補者2名について、村上事務局長より略歴と推薦理由を説明後、各候補者につき承認に関する採決を行いました。その結果、監事候補者2名の選任を確認し、引き続き選出された監事2名（毛利吉男、山下泰之）の就任承諾を確認しました。

例年の総会と異なり昨年同様に、新型コロナ感染対策としての時間短縮のため、下記の報告事項①②③に係る議案は略し、事前配布の冊子による確認に止め、本総会では詳細説明を割愛しました。

①2020年度事業報告並びに同附属明細書について

②2021年度事業計画について

③2021年度収支予算書について

同様に、例年総会後に開催の海外プロジェクト報告会や懇親会についても、開催はとり止めました。

地区活動では、関西地区を中心に、全国11のエリアごとに地区世話人を中心として、本会の活動と理念の普及やアジアとの「理解と協力と連帯」の輪を広げることを目的に、様々な活動が企画されました。コロナのため多くのイベントが中止を余儀なくされました。

本会が提唱した**国際グリーンスカウト活動**として国内各地域でも活動していますが、コロナによる中止が多発した中で、吹田部会が毎月1回の例会と川清掃活動を実施しました。

各地の会員活動

「土水」や環境保全活動

第37回「土と水と緑の学校」を8月に和歌山県新宮市で、同じく**美山「土と水と緑の自然学校」**も3月に京都府南丹市美山町で開催予定でしたが、コロナのため中止しました。

関連市民活動として、関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイOSAKAも、各設立趣旨に沿って活動しました。

「土水」や環境保全活動



奈良地区会のどんぐりクラフト

が、チャリティ企画で得られる資金でアジアを支援することを目的に、可能な限り実施しました。

一方、各地区会に会長・副会長・事務局長・書記から成る組織を整え、11月に初の地区会長会を実施しました。

例年、各地区会でJAFSアジア支援活動の報告会を実施していますが、コロナにより渡航の機会が限られた今年は、ネパールに関する報告会のみいくつかの地区会で開催できました。

地元の祭やイベントへのチャリティ出展は例年多くの機会がありますが、コロナにより全て中止されました。

他に地区活動として以下のようなイベントが開催されました。南京玉すだれ教室／JAFS高槻、緑とふれあう

収支決算書（2020年4月1日～2021年3月31日）

[1] 収入の部 (単位円) [2] 支出の部 (単位円)

科 目	予算額	決算額	差 異	科 目	予算額	決算額	差 異
1. 会費収入	23,000,000	18,363,820	4,636,180	1. 事業費	66,600,000	36,681,404	29,918,596
(1) 社員会費収入	4,800,000	4,573,900	226,100	(1) 水(井戸・飲料水供給)	22,000,000	13,080,028	8,919,972
(2) 維持会費収入	8,880,000	7,132,120	1,747,880	(2) 子ども(里親・教育・学校建設)	16,500,000	8,529,320	7,970,680
(3) 賛助会費収入	6,000,000	3,694,800	2,305,200	(3) 貧困(生活自立・職業訓練)	3,200,000	1,978,988	1,221,012
(4) 学生会費収入	0	0	0	(4) 環境(GS活動・植林・バイオガス)	7,600,000	2,567,678	5,032,322
(5) 団体会費収入	300,000	160,000	140,000	(5) サイクル・エイド事業	2,500,000	2,199,259	300,741
(6) 法人賛助会費収入	3,000,000	2,800,000	200,000	(6) ネットワーク推進事業	6,000,000	1,381,117	4,618,883
(7) ジュニア会費収入	20,000	3,000	17,000	(7) 人材交流・育成事業	1,000,000	386,843	613,157
2. 募金・寄付金・補助金収入	122,000,000	111,252,130	10,747,870	(8) 地域広報活動事業	4,300,000	5,729,063	△ 1,429,063
3. 負担金収入	10,650,000	940,788	9,709,212	(9) 環境保全・啓発教育事業(土水)	3,500,000	829,108	2,670,892
4. 為替差益	0	133,457	△ 133,457	2. 災害特別助成金支出			
5. 受取利息	2,000	1,584	416	(1) 災害等罹災者支援事業	500,000	11,580,676	△ 11,080,676
6. 雑収入	28,000	12,170	15,830	(2) ネパール地震復興支援事業	56,300,000	52,255,505	4,044,495
当期収入合計A	155,680,000	130,703,949	24,976,051	(3) フィリピン台風被災者支援事業	1,000,000	1,017,722	△ 17,722
前期繰越収支差額	1,888,196	1,888,196	0	3. 管理費	30,980,000	22,963,881	8,016,119
収入合計C	157,568,196	132,592,145	24,976,051	4. 退職給付引当資産取得支出	300,000	2,113,000	△ 1,813,000
				5. 敷金取得支出	0	40,000	△ 40,000
				6. 基本財産振替支出	0	0	0
				7. 予備調整費	0	0	0
				当期支出合計B	155,680,000	126,652,188	29,027,812
				当期収支差額A－B	0	4,051,761	△ 4,051,761
				次期繰越収支差額C－B	1,888,196	5,939,957	△ 4,051,761

会（農作業）／第2エリア、まいど大阪おもしろウォーク・歴史散歩／なにわ西、子ども国際交流ひろば・ユース会議・里子支援バザー／南河内・松原地区、京都チャリティウォーク・京都チャリティピアノコンサート／第5エリア、ドリアンチャリティフェスティバルinまどか村／生駒地区会、どんぐりひろい&クラフト／奈良地区会、佐藤手芸教室バザー・チャリティ玉手箱展ミニバザー／第8エリア、など。

プロジェクト支援グループ

海外プロジェクト支援を目的とする17グループが、コロナ感染対策を講じながら、様々なイベントやチャリティ活動による海外支援事業の応援を、精力的に展開しました。

活動したグループは以下の通りです。JAFS本部で毎月開催し贈水を雑炊により支援する「ぞうすいの会」、里親の会を手作り和紙クラフトで支援する「アジア井戸ばたサロン」、スリランカの提携団体を支援する「スリランカ・サルボダ友の会」、日印友好学園コスモニケタンの運営を支援する「日印友好学園支援会」、ネパールの活動を支援する「ネパールへのかけ橋」、料理を活かした活動で水支援をする「PAON」、シルクロードを中心に文化を学び理解し合う「オアシス会」、アジアの若手に人材育英資金を支給する「アジアネッ



バーラト会5周年を祝う会

トワーク奨学会」、ネパールの教育を支援する「ネパール子ども夢基金」、農村の医療・保健向上を支援する「ネパール地域医療支援会」、自転車を通じて国際交流を深める「サイクル・エイド支援会」、毎月の例会を通してインド理解を深める「バーラト会」、歌ってチャリティ支援をする「歌声サロン」、各種セミナーの開催でチャリティ支援をする「ワンコインセミナー」、チャリティ旅行でアジアフレンドシップ夢基金に寄付する「旅人（たびんちゅ）」、フリマや街頭募金でインドのHIV家族を支援する「いのちの会校方」、留学生と日本の学生が支え合う「留学生コミュニティーDesign the Community」。

14（22ページ）に掲載した2021年度支援事業から、4つの事業を詳しく紹介します。JAFSに届く支援要請の背景には、各国の難しい状況と、それを何とか改善しようとする現地提攜団体の思いがあります。皆さまの心が現地とつながり、温かいご支援が届くよう願っています。

老朽化した中学校寮を再建

ラオス

必要資金500万円

ボンサリー県ブンヌア郡ナンフェ中学校の学生寮2棟を再建し、1棟につき2部屋2トイレを完備します。寮は、周辺5つの村からやって来る生徒



が利用しています。遠くの村から通う生徒たちは、通学にかかる時間を学習にあてることができません。

しかし、現在ある学生寮は、生徒の保護者らが実費で建てた仮設寮で、とても粗末な建物です。写真。老朽化し、毎年修繕が必要です。

子どもたちが義務教育を適切な環境下で受けるためには、学生寮の再建が必要です。そのためには、皆様のご支援ご協力が不可欠です。

寮が再建できれば、子どもたちの学習環境や生活環境の向上につながります。また、遠方の村からやってくる子どもたちや保護者に安心した環境を提供できるようになります。

寮を再建できた後は、学校の年間就学率がどれだけ上がったか、教育環境および教育の質をどのように向上できたか、などの統計データをしっかりとめて分析し、ご支援くださった方に再建の効果を報告します。

ラオスでは、政府の教育予算が極めて少なく、適切な校舎や学習環境が整備されていないことや、教育の質の低さなどの課題を抱えています。

女性のための縫製職業訓練

インド

必要資金120万円

マハラシュトラ州アムラワティ県アチャプル地区ダリヤバード村の女性50人に縫製の職業訓練を行い、雇用の確保と生活向上を目指します。



同村は、人口1500人（男性950人、女性550人）の小さなスラム街です。半数以上が農業ですが、多くが日雇いでも生計を立てており、不安定な生活を送っています。新型コロナウイルス感染症が流行し、彼らの生活はさらに先行きが見えなくなっています。

なぜなら、同村に住む女性の約20%は、学校教育を受けていません。また教育を受けていても、正規に雇用されたり、すぐに他の職に就くには、技能が足りないからです。

コロナ禍で敷布の需要が増え、人口増加によって子どもたちの制服などへの需要が高まっています。より多くの女性が縫製技術を身につけ、社会で活躍できる機会を増やすことを目指します。

村の女性たちは、縫製訓練に向けてミーティングし、準備を進めています。写真。しかし、ミシンや刺繍機、工具、トレーニング用の布などが不足しています。これらをご寄付いただくことで、事業を進めていくことができます。事業実施後は、女性たちがコロナ禍の中でも自立した生活を送ることができるよう導きます。

コロナ防ぐ安全な井戸水を

フィリピン

必要資金430万円

安全な水の普及率は年々改善されつつありますが、沿岸部では旧式の井戸が多く、海水が混入し、毎年台風の時

期には水が汚染され、飲料に使えません。農村部でも、わずかな収入しかない村人自身が深井戸を掘ることは難しく、ミネラルウォーターも買えないので、安全といえない浅井戸の水を長い距離歩いて手に入れています。体の弱い子どもやお年寄り

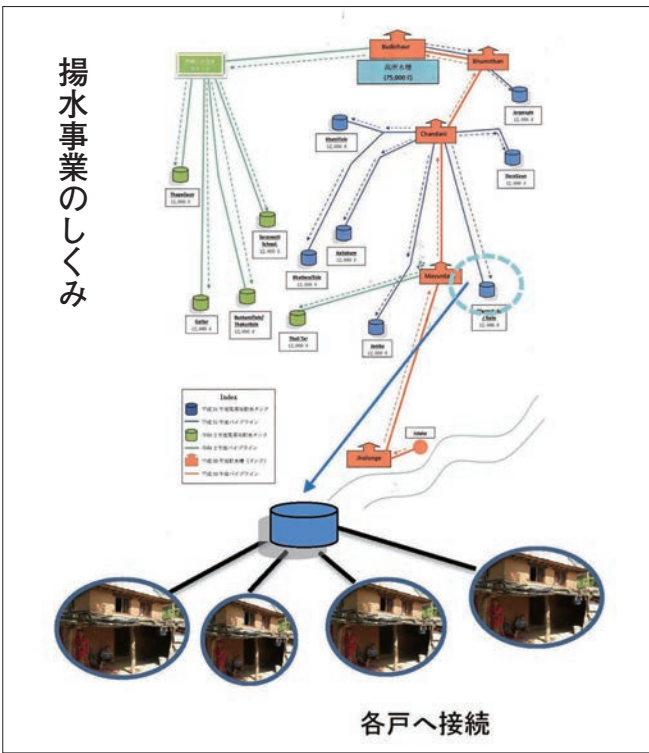
は水が原因の病気に悩まされていますが、病院に行くこともできません。

村に井戸がない人々は、厳しい移動制限のため、隣村まで水くみに行くことができなくなっていました。今までは個人で深井戸を持っている人が他の村人にも井戸を使うように開放していましたが、接触を避けるために、大勢が集まる水くみはできなくなっていました。このため、今まで以上に多くの村から井戸建設の要請が届いています。



学校から帰って暗くなっても水くみを手伝う少年

揚水事業の画竜点睛 パイプ敷設へ支援を



揚水事業のしくみ

各戸へ接続

ネパール

必要資金240万円

シンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区を対象として、川の水を800m上にくみ上げ、村全体に等しく給水する事業。ネパールでは6割強の人が農業に従事していますが、険しい地形、インフラ未整備、生産性の低い農業が貧困の原因となっています。

その解決に欠かせないのが水です。同地区は乾燥して水に乏しい上、地震の後、水脈が枯れ、川が唯一の水源となつています。そこで2019年3月から、大規模揚水事業を始めました。

外務省から無償資金協力を得ていますが、これは、くみ上げた水を集落ご

とにためるタンクを設置するまでの費用となります。住民が実際に水を使うようにするには、その先の各戸までパイプを敷設する資金を、皆さまにご協力いただく必要があるのです。当初は5〜10世帯で使う共同水場をつくる予定でしたが、政府が途中から「1世帯1蛇口」の方針を掲げたためです。

そこで話し合いをし、JAFSが各戸手前までのパイプを敷設する一方、住民はその先の蛇口までの設備設置費用を自己負担し、パイプ敷設時に1日以上のボランティア労働をすることを約束しました。生活と農業用の十分な水を身近で享受できるかどうかに、村の未来がかかっています。

34ページに現地からのレポート



アジアの子のため チャリティ コンサート

国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ＝裏表紙にアドレス、連絡先



コロナ禍で1年遅れましたが……

JAFS 京都地区会では、3月27日に京都市南区の洛南教会を会場にお借りし、第4回^{たけなまこと}竹中真都チャリティピアノコンサートを開催しました。

今回のコンサートは昨年2月に計画していましたが、コロナ禍の影響で開催寸前にやむなく中止に至っていました。何とか2020年度中には開催したい、という関係者の熱い思いで実現できました。

しかし、まだコロナ禍中です。参加される方には、受付での検温とアルコール消毒の徹底、マスク着用をお願いしました。座席も一席ずつ離してソーシャルディスタンスに注意を払いながらの開催でした。結果的には50名に参加いただいて、竹中先生のジャズピアノを楽しんでいただくことができました。写真。

昨年度はコロナの関係でほとんどの行事が開催できず、ボランティア活動を通じて啓発やチャリティ活動を進める当会としては、本当に難しく、ストレスのたまる1年でした。

しかしアジアには、私たちの支援を待つ子どもたちがいます。京都地区会でのチャリティ獲得金は例年の半分程度になりましたが、なんとかアジアの子どもたちへ思いを届け、継続的な支援を行うことができました。今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。

(JAFS 京都地区会 辻賢二)

田んぼのライブでJAFSを応援



昨年6月にJAFS生駒を立ち上げ、10月から毎月、JAFS応援団の一般社団法人ドリアンプランニングが主催するチャリティイベントに協賛参加しています。会場は、奈良県生駒市の田んぼの真ん中に建てられた健康食品販売店「まどか村」。車の便が良く大阪からもお客様が来られます。

コロナ感染の可能性が少ない戸外にある「まどか村」を探し、オーナーと交渉し、廃材を利用して仮設ステージを作り、音楽ライブ中心のイベントを安心してできる環境も整えてもらいました。観客を集めるため、フリーマー

の心配も全くありません。参加者は8名。総歩数は2万歩でした。今後も月

1回程度の開催を予定しています。
(JAFS 会員 大本 和子)

道歩きを楽しんで募金する会

ウォーキングを楽しみながら「アジアフレンドシップ夢基金」(困窮する

人たちをサポートするためにアジアの人たちと一緒に作る国際基金)を、参加費で支援することを

ネットに併せ、アマチュアバンドを集めてライブを同時開催しています。写真。

コロナ禍が長引く中、将来は、コンサートと同様に開催が激減したフリーマーケット、英語教室、ヨガ教室、ア

歩く会(世話人はJAFS会員の石原基義さん)が発足。第1回として4月8日に春の奈良・飛鳥路を歩きました。写真。

お天気は快晴。景観を損なう建造物は一切ない田園のウォーキングコースはよく整備され、街も古い家並みがよく保存されていました。途中、高松塚古墳や石舞台を訪れましたが、ちょうど新緑の最も美しい季節で、緑や赤の新緑に目を奪われながら、気持ちの良い時間を楽しみました。縦一列になって、のんびり歩きますので、三密とは無縁です。食事休憩の時間も、参加者は離れて座り、感染拡大

募ります

アジアのごみ問題が 気になる人

アジアのごみや汚水に関わる衛生環境改善のために、共に考え取り組んでいただける方を募集します。

アジアの活動地では、貧しい人はいより厳しい状況で暮らしており、衛生的でない環境で健康的な生活が送れず、災害時にも大きな被害を受けています。現地提携団体や村人と共に、ごみ問題の側面から地域環境を整える活動について、これから一緒に考え作っていきませんか。
コロナ下でもできる第一歩とし

「パンダン会」の 会員を募ります

パンダン会は、JAFSが支援した「安全な飲料水パイプライン建設事業」を通じて知り合ったフィリピン、バナイ島パンダン町民との交流を続けるための会です。

て、秋頃にインドネシア・フィリピン・日本で海岸ごみ拾いを同時開催しようと企画中です。海を越えて連帯感が感じられるよう、オンラインで互いのライブ動画を共有しながらできればと考えています。コロナ禍が収まれば、現地の活動メンバーと実際の状況を見ながら話し合う機会も作れたらと考えています。

企画段階から参加いただける方、また、屋外でのライブ配信に知恵と技術をお貸しいただける方のご協力もぜひとも必要としています。皆様からのご参加お待ちしております。

ご質問などがございましたら、JAFS事務局(川本)までご連絡を。35の「環境コラム」もご参照ください。

現地には「AFSパンダン」が結成されており、本会の「土と水と緑の学校」(通称「土水」)も現地で開かれています。ワークキャンプに参加された方、当地を訪問された方はじめ、関心ある方の参加(会員)を募ります。詳しくは、JAFS事務局までお問い合わせください。

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）

2021年3月1日～5月31日

- 社員会員
奥田順／佐野光彦
- 維持会員
小野山昭英／川崎献一／中井良美／樋口雅軌／深谷春男
- 賛助会員
今中豊／権藤恒安

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）

2021年3月1日～5月31日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

- 社員会費
秋山賀子／浅野弘／足達新／安達英行／熱田親憲／熱田典子／天野紀／池田邦子／池本修／石田雅昭／石原基義／上野孝一／宇野稔／大野嘉宏／大原映子／大本和子／岡本厚／岡本佳子／小澤勇／柿島裕／笠谷正博／栢下壽／川合千代子／川上知子／川崎壽／川端勝／北田嘉信／北野光三／北山典彦／金昌則／草加節男／栗村壽子／古賀旭／古賀範久／小林久仁子／櫻井紘哉／佐々木実／佐藤眞子／佐藤道代／佐藤満昭／佐藤理香／更家充／篠原勝弘／島井宏子／下山浩二／杉林則子／平興隆／高垣靖／高田晃宏／辰西幹夫／田中壽美子／田中政直／谷岡康男／千代博子／辻川楠美／土屋菊男／藤間孝子／藤間剛／富田和政／富松英二／鳥居京子／中井淳夫／中内一揚／中島和子／中西洋／中村敏子／中村日游／西田貞之／野木義弘／野口明英／堅島五兵衛／橋口高明／橋本隆／韓礼元／東幹男／平山隆史／福川肅／藤本加代子／藤原正昭
- 維持会費
細谷詩子／法花敏郎／本間一将／松原直弘／松本静枝／宮野谷篤／宮本照佳／三波眞由美／虫明慧悟／村上和範／村上公彦／村上清子／毛利吉男／森本榮三／森脇寛／安田信人／八束浩一／柳井一朗／山崎道治／山崎桃／山下泰之／山田和広／山田英男／山田穂積／横井怜子／横山浩平／吉岡健一／米田徳子／若元裕美／若元良嗣
- 維持会費
浅尾みちる／浅野照子／安達淳子／熱田照子／熱田貴子／天野貞男／天野さやか／天野日男／雨森清忠／新井隆郎／荒川惣平／有本幹子／栗井健徳／幾谷眞規子／池谷和博／石原京子／泉原眞由美／市来陽代／市来千代子／市坪利恵子／伊津野修／伊藤雅子／因幡明洋／井上公男／井上美保／井上順子／今井利子／今井康郎／今堀京子／岩城良子／上田高久／植田直弘／植村龍子／梅田祥仁／浦野健二／海野良三／江守猛／大島一晃／太田美代子／山野ふさ好
- 井戸一基建設支援
○カンボジア
松江宏
- スリランカ
天使の聖母トラピスチヌ修道院／匿名
- ネパール
秋山賀子／大阪女学院中学校2020年卒業生一同／(株)元商會／JAFS校方地区会／若山治子
- フィリピン
(株)元商會
- アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／岡本圭司／古賀旭／中島和子／村上公彦
- アジア・フレンドシップ夢基金
JAFS歩く会／木村泰彦／ドリアン・ランニング／理事懇親会
- アジア・子ども支援
上好まゆみ／チャリティショップKANAU
- コスモニケタン指定
田中衣子
- インド・HIV子どもと家族支援会費
苗村登美子
- インド・無医村医療支援
(財)パブリックリソース財団
- スリランカ・サルボダヤ支援会費
阿部有紀／岡本朋子／岡本佳子／西田貞之／法花敏郎／松原直弘
- ネパール・ヒトウリ支援会費
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／前田美津代／前田豊／宮本博幸／饒平名知幸

- 真知子／大谷伊津枝／大槻昌寛／大成孝子／太平さゆり／大脇君義／岡野さぬ子／岡本朋子／小川富／沖早知子／置田善三／荻野晋也／奥平譲治／尾崎幸子／落合朋子／小野舞／小野山昭英／藤山征宣／加地美智子／梶谷阿久里／片山和子／片山直也／勝見文雄／金子澄子／金丸幸子／金村実香／釜下昭子／上岡忠人／加茂清次／川上知輝／北口正敏／北田雅人／北村晏一／吉相幸枝／木野由弘／木原みき／木村依江／清岡恵美子／楠山容子／久保田久人／熊本千恵子／栗山拓／黒木隼彦／小出裕司／江夏博美／梶矢美智／甲田一幸／小倉正和／小島俊之／古住満寿子／小谷のり子／小西尚子／小林英子／小林眞澄／小松一子／小森茂之／小山西雄／小山西裕子／齊藤透／齊藤仁／斎藤美美子／斉藤渡／佐伯康子／嵯峨山節子／佐藤満子／佐藤寛範／佐藤泰範／佐藤善範／澤田安子／實まり子／芝崎未廣／島田恒／下野博／正法地圭／正法地浩／白井春夫／須賀浩／菅原直樹／杉江久男／杉原貴／鈴木誠也／住友藍／瀬川眞平／関口淳／曾和明／平善行／高畑政登／田口哲朗／竹田陽子／竹中一章／竹中由紀子／武生伸子／立石小夜子／田中和枝／田中和子／谷口昌嘉／谷丸八郎／種村政宏／玉置和子／辻賢二／辻正浩／津田洋子／坪内廣次／土井利夫／土居正明／堂浦郷子／遠田智代／徳永正和／富松孝司／豊田財光枝／豊田元彦／豊田祐輔／寅田和代／鳥居建十／鳥居洋一／内藤恵子／中井良美／長江佐和／中岡末子／中川寛子／中嶋典子／中嶋三栄子／中嶋就子／中嶋綾／中陳和悦／中須賀敬子／中筋光子／中谷華菜／中西彰夫／中西伸子／中西正喜／長野清文／中橋政美／中南有加里／中村真司／中村智子／中村暢秀／中森隆枝／西優子／西浦康平／西川龍夫／西田信行／西田恭子／西野恵子／西林昌樹／西山あかり／野池徹／橋本喜代子／橋本喜代美／橋本元氣／橋本恵／長谷川雅子／秦道代／林佐妃子／林千夏／原田和幸／日生下卓／日方優子／樋口謙田勝江
- ネパール子ども夢・基金
鎌田勝江
- ネパール植林指定
(株)日本人試センター
- ネパール子ども指定
(公財)毎日新聞大阪社会事業団
- ネパール地震被災者支援
東代清隆／元橋亮治
- バングラデシュ指定
西亀眞
- 貧困対策指定寄付
伊奈徹
- フィリピン障害者支援
岡本朋子
- フィリピンストリートチルドレン支援
JAFS京都地区会
- フレンドシップ基金
橋本隆
- ネパール学校建設支援
福永有花／横田美智子／渡辺治彦
- 地球幸せ募金
小代利子
- 助成金（ネパール環境支援）
りそなアジア・オセアニア財団
- 九州地方豪雨被害緊急支援
阿部克樹
- 東日本大震災復興支援寄付
元橋亮治
- フィリピン台風被災者支援寄付
関東学院のびのびのぼ園／松村莉帆

- 雅軌／久光定雄／日野恵美子／日野眞澄／平川輝子／平見美智子／廣地洋太／深谷春男／福島朋子／福本義克／藤井順子／藤井りか／藤川孝夫／藤木一世／藤木茂利／藤田百合子／藤原龍雄／船戸尚子／古川光照／古田万紀子／堀正巳／堀口賢司／堀口富子／堀田飛鳥／本多操／前澤良子／前田乙美／正道幹子／真下浩一／樹田実／松村祐介／松本節子／松本典子／マッラジャンマン／的場義恵／三木裕則／三國谷勝寛／溝尾敬子／光畑麻美／宮田安紀子／宮田幹／宮野慧子／妙代和也／宗石和久／村本康治／森茂昭／森利明／森木俊行／森村文則／八尾眞弓／八木正人／Yakop Swicavo／安留治／八頭司和子／柳原富美子／山内幸太／山岡輝清／山口幸子／山口文枝／山崎晶子／山下登世子／山下善照／山田孝彦／山部權／山本勝彦／山本真司／山本哲司／山本幸子／横井明子／吉岡照仁／吉田伊吹／饒平名知幸／鋸坂総子／靈松寺／和田早苗／和田多喜子

- 賛助会費
浅井聡子／浅野敏弘／荒川奈秀子／池嶋伸晃／池住美樹／池田喜代子／池田倫子／石尾美佐子／石川忠義／石田尚美／泉谷博幸／一鷹要市／市村睦子／一色由子／稲垣章子／井上修二／晶子／井上康／今中豊／岩切康宏／岩崎裕保／岩下将人／岩間美佐子／上野泰子／上畑育美／植村友恵／漆原嘉孝／江守和子／大谷まり子／大野早百合／大橋舜子／沖本加代子／奥野憲一／奥山宏靖／鬼塚友子／小山一行／柿島頼紀／籠谷谷登／鍛冶良祐／加芝ナミ子／梶原英一／粕谷早苗／粕谷香代子／勝成忠／加藤繁生／川島敏子／川端美智子／川村忠／上林愛子／上林喜久郎／岸本啓子／岸本政也／北岡幸子／北川久躬子／北村英夫／北村光弘／狐塚真美子／網田悦子／木原民世／木村和夫／木村直子／近藤利則／栗山聡子／桑原由紀子／小泉和／小林理恵／齋藤史子／斉藤理美／坂上知子／佐々寿子／佐々靖

- 男／真田朱美／清水直子／シュレストナニマヤ／庄司野守三郎／平眞知子／高宮寿子／高山純一／田口吉三／嵩聰久／竹井智子／竹中晋／竹中敏恵／武部恵子／谷総安雄／谷口惺／クンパールカイラー／シュ／長克宣／辻貴文／辻知久／津田宏久／都筑信美／壺井利一／出来成人／デリーブ・チャンドラール／徳永昌彦／外村茂一／富田修／友松千草／外山和美／内藤健一／内藤肇／内藤雅貴／中島慎介／永谷恵子／中谷太一／中西邦夫／中野鉄馬／長浜真美／中村操／中村弓絵／成山邦子／西浦暢子／西田愉子／西林文／西原茂／西山美智恵／二野英子／野上麻理／野川節子／野口須美子／野島哲也／畠山常夫／畠中美代子／花光智香子／塙平葉子／浜田春樹／濱田光江／早崎鉄也／原明博／東谷香保子／藤田みく／飛田雄一／平岡三保子／平川哲也／藤本三恵／藤原昭子／藤原勝徳／麓忠司／鮎松志津子／堀田紀美子／堀富子／本間耕一／前田幸利／牧比呂美／松浦有理子／松田高志／松長朋子／松野光伸／松本倫代／三上敦史／水野恵理子／御手洗圭／箕浦明子／宮崎誠也／宮崎淳／村口ミヨ子／森岡幸子／森田浩／八木原由希子／山崎兄／山田伸枝／山野和子／山本隆／山本七々子／山本晴子／湯浅公太／湯浅洋子／行廣眞紀／横井文／横山里美／吉積慶子／吉用トモ子／義本奈々／愿山紀代／若林美幸／和田みな子／綿田元松／渡辺彩智子
- ジュニア会費
徳永健／徳永優
- 団体会費
大阪友の会
- 法人会費
岡三証券株式会社／(株)ジャパンボトラーズ／日広機設(株)寢屋川教会／(株)ソールオカフジ／山田不動産(株)

- 里親会費
アジア井戸ばたサロン／荒木美智／石神誠／石原歩／岡田麻理／岡部美和／岡村遍導／奥野憲一／鬼塚友子／川治依子／網田悦子／木下敏子／木村征代／久留須眞由美／小西孝彦／小林久仁子／斉藤渡／佐藤満子／佐藤正明／莊司晃一／住友藍／園田道子／平眞知子／高瀬裕彦／田中修／田中貴美子／谷総安雄／坪内廣次／寺山正道／徳永健／徳永昌彦／中島綾／中陳和悦／中村操／中村弓絵／西宮教会婦人会／野井洋正／長谷川雅子／畠山房子／畠平恵子／塙平葉子／日生下卓／平川哲也／洋野町国際交流協会／福岡名津子／藤原勝徳／堀田飛鳥／前田恵美子／前田泰子／松原直弘／三里健一／水野結乃美／村上聡代／森利明／森崎律子／森下正志／山岡輝清／山口眞理子／山脇哲

- 一般寄付
青木洋介／熱田親憲／ウィル合同法律事務所／上野孝一／大久保洋子／岡藤茂夫／木下良子／栗村壽子／小林剛／酒井聖／櫻井紘哉／篠原勝弘／認定こども園すみれ幼稚園／ソフトバンクつながる募金／富松英二／ナモナキピリオネラ／藤原正昭／法花敏郎／眞砂哲志／松本静枝／宮野谷篤／村上公彦／森本榮三／梁井亮／矢野史洋／脇家崇夫／ドリアン・ランニング／匿名
- 井戸指定寄付（募金箱より）
京都暁星高等学校／幾谷昌彦／谷楨子／延原修／饒平名知幸
- 井戸指定クラウドファンディング
○インド
熱田典子
- バングラデシュ
熱田典子／辻本選子／辻本昇
- 井戸積立
(一財)エ○サンタ／西宮友の会／畠中

- 新型コロナウイルス緊急募金
○アジアの子どもたち支援／国内留学生支援
秋山タカ子／浅沼暁子／浅野直人／浅野弘／有田稔／栗野アツ子／安藤謙治／安藤幹雄／池田ミオ子／池田美奈子／石尾美佐子／石田武／石谷信英／出原恵子／伊藤誠／井上賢／井上勇一／岩本郁子／(株)ユニバーサルインシアランス／上野道善／植村ルリ／内野清子／梅本隆司／富実子／姥名健仁／加奈子／円頓寺・大岩典代／大須賀不出子／太田宜子／大谷タカコ／大野篤一郎／大橋鈴子／大橋克次／大畑直之／大山行雄／大脇君義／岡田経子／岡本就介／小川良文／沖田哲男／小椋加代子／小野豪臣／小野恵大／小原弘信／香川泰子／笠谷正博／毛利吉男／加藤弘量／加藤朝子／加藤喜代子／加藤繁生／加藤美樹／金谷節子／祐奈／金子文子／鎌田勝江／神谷尚孝／上村みちえ／萱原俊哉／川崎洋二／川崎隆二／川島敏子／川西秀樹／川邊比呂子／川村忠／上林愛子／函嶺白百合学園小学校／菊池哲也／嶽盛和三／木野友義／木下良子／高松雅／木村清世／木村早苗／木村征代／木村依江／清原浩子／葛谷友子／久保田篤／敬子／久米川良子／栗山拓／小出裕司／河野奈奈／小阪勝／小代利子／後藤安子／後藤理紗／小林久仁子／小林仁美／小林照子／近藤朋子／近藤十郎／齋藤正健／浄土宗西方寺／作田和彦／佐々木健児／ゆみ子／佐々木実／佐藤正明／佐藤美千代／澤田武憲／塩尻昭枝／四國うどん讃岐路／重吉孝一郎／篠田京子／篠田勲／芝崎末廣／柴田治男／柴谷享一郎／吉田英哲／庄子幸子／和田康圓／正法地由紀子／勝楽寺／新谷百代／新羅和子／菅原直樹／菅原芳徳／杉本明子／杉本牧子／住谷裕弘／聖フランシスコ会／瀬尻芳子／仙野和子／高木光子／高岸泰子／高島純子／高瀬みよ子／高谷侑助／田口裕子／田桑武志／多胡恭子／田中裕江／田中静枝／田中通成／谷口和代／谷阪洋子／日野西光尊／長知子／塚口泰

- 子／寺山正道／土井ルミ子／東代清隆／藤間孝子／戸田恭子／富田修／富永たけ／中川咲子／中島和子／中嶋啓子／中島裕子／中谷誠／中塚鞠子／中西豊次／中野為夫／桂子／中山康夫／那須トラピスト修道院／西扶美子／西田貞之／西原八重子／西村節子／西本悦子／西森幸子／西山美智恵／延原修／萩原節子／畠山ひろみ／畠山房子／畠平恵子／花房啓子／英由季／羽田孝彦／浜田春樹／早崎鉄也／林温子／林越洋子／林田陽子／はりま平安教会／春重祺子／日笠修宏／東野鈴枝／平井静／平野千晴／廣澤悦子／廣田恵美／深谷春男／福西礼子／藤井順子／藤原克彦／藤原さくら／藤原正昭／藤原増子／二葉幼稚園／船戸康夫／古谷佳世子／別府浄照／坊上信子／法蔵寺／細谷詩子／法花敏郎／堀口節子／本庄紀子／前田みどり／前田美保子／増山律子／松浦有理子／松江宏／松尾慶治／松生孝子／松下千鶴子／松野光伸／松本勝正／三木あゆ子／水島かなえ／水本裕子／溝口清子／宮地文子／宮野谷篤／妙代和也／宗本光義／村田恭仁子／森崎律子／森田登代子／森田康代／森長敬／森本榮三／森山涼子／矢賀繁之／八木祐子／八束浩一／数内資子／山川清／山口かをる／山口香世子／山澤寛子／山下玉英／山田善清／山野和子／山本晴子／悠友(株)／横井明子／横井文／横山浩平／吉田俊朗／義村小夜子／吉村治子／米澤澄子／米田明正／余根田保／レデンプトリスチン修道院／脇家崇夫／和田一成／和田幸子／渡辺治彦／ジャケルさんを囲む会／SWEDEG／荒川英二／匿名3件
- 物品・日用品・食料品等
浦野美也子／岡部雅子／佐藤満昭／設楽宏幸／中西豊次／西原智珂子／森田素子
- 集めるキャンペーン
石原基義／岸本玲子／黒田洋子／田岡佳子／西原智珂子／根津千枝子／畑中義雄／畠平恵子／法花敏郎／吉田幸子

「野菜・果物あふれる地に」

村人、仕事としての農業に意欲

ネパール、シンドウパールチョーク
郡インドラワティ村10区（旧ボテシパ

村）でJAFSが進めている揚水システム設置による地域づくりが、3月25日に最終年度の3年目



に入りました。生活エリアに水が届き、変わりつつある村の状況と残る課題について、AFSネパールのスタッフと事業地インドラワティ村の人々にインタビューしました。

AFSネパール、スタッフフレジマ・ヤラチャヤさん

事業が始まる前、村人たちは日常生活の不便さや大変さが改善されていくとは思っていませんでした。しかし

自分の住む地域へ水を配るため、パイプライン敷設に参加する村人

今、前向きな将来への希望を見ることができ、事業へ協力しようという意気込みを肌で感じられるようになりました。

課題は、村人たちに有機農法の利点を理解して受け入れてもらうことです。すぐに効果を見ることができない農業を用いた農業を、長年行ってきたためです。また事業地では、風の季節や雨期に電気やネットワークの障害が頻繁に起きます。そのため、村人たちの手で行う必要のある揚水システムの稼働や管理体制に不安が残ります。

AFSネパール、スタッフフレジマ・タパ・マギールさん

有機農業に関する人々の考えや行動に、実際の変化をもたらすことが課題です。また、水を使う際の料金体制を納得してもらうことも課題として残っています。

村人ラム・タパ・マギールさん

これまで村に仕事がなく、外へ出稼ぎに行っていました。今はこの建設地で働くことができます。この事業のおかげで、村人たちの意識が村へ向き始めています。私たちはこの土地に住み、将来の子孫のために何かをしたい、この不毛な土地を野菜と果物であふれるようにしたいと思っています。

村人ナラヤン・ダウラコティさん

農業研修で得た知識を、地域に住む

仲間たちへ教えています。彼らも仕事としての農業や有機栽培に興味を持ち始めました。JAFSが様々な野菜や果物の種苗を配布してくれるので、遠く離れた店へ種苗を探しに行く手間が省け、農業で生計を立てることを身近に感じられるようになりました。

しかし現在、村には農作物を一括販売するための集荷所がありません。また未舗装な道路のため、町へ売りに行く際の輸送の難しさを感じています。

村人パビトラ・カルキ・タパ・マギールさん

村を出て働くしかなかった人たちが、村でできることを考え始めました。次世代のために環境を保護しながらできる有機栽培技術を学んでおり、これまで農業ができなかった人々も、水が手に入ることで、仕事としての農業を始めることができると前向きに捉えています。ただし、村の中でも貧富差があり、仕事としての農業を始めるために投資ができる農家とできない農家があります。できない農家への支援が課題だと思います。

村人が、これまで諦めていた「村で家族と一緒に暮らす」という夢に希望を持ち、自分たちから変わろうとしている熱意を強く感じました。

（JAFSネパール駐在員

中島彩華）
29ページに
関係記事

編集後記

週刊新潮を創刊した名編集者・齋藤十一は、悪い原稿は「どんな人気作家でも『貴作拝見、没』の一言でダメ出しし、分かる面白い読者目線を貰いたか。その万分の一でも見習いたくて、本誌をお手伝いしています。（黒）

40年前のアジア渡航の前、コレラの予防接種を受けて体に不調を覚えたことがある。コロナのワクチンは周囲に反対派もいるので迷ったが、結局、効果を信じて接種した。自分の命を守るのも自己責任の時代がきた。（裕）

ネパールに感染。身近に迫った危機だったが、幸い身内感染なく回復した。同時に、友人知り合いの死亡連絡が数件入る。コロナよ、そろそろ人間をいじめるのはヤメテ！（典）

これからも、皆さんの支援の状況を具体的にわかりやすくお伝えしていくように努めます。皆さんもコロナ禍で大変でしょうが、恵まれないアジアの人達への支援よろしく。（金）

息子が4月に大学生になりましたが、講義は2週間ですぐオンラインに。デジタルネイティブな若者たち。受講は手の物ですが、友だち作りにはやはり対面を欲します。それでも家に居ながらZOOMでの交流も頻繁で、新時代の武器が救いです。（川）

海がめの鼻にストローが刺さった動画から多くの人の知るところとなった「海洋プラスチック汚染」。生活から否応なく出るごみの問題には、以前から各地域で取り組まれています。地球規模の問題として世界の人々がごみに対して共通の視点を持った初めての例ではないでしょうか。

プラスチックの海洋への流出量は、世界で年間800万トンと試算され、日本の年間プラスチック発生量に匹敵するそうです。容器包装プラスチックに限っても、1人当たり廃棄量が日本は米国に次ぐ世界2位。日本中で心苦しくも日々廃棄している多くのプラスチックに匹敵するほど多量のプラスチックが海に流れ出ているとは！

海洋プラスチックの流出量を国別に推定した研究によると、上位のほとんどが東南アジアを中心とするアジア諸国です。この中には、日本からアジアに輸出したプラスチックが管理しきれず流れ出たごみも含まれており、もちろん日本からもごみが出て海や他国を汚してもいます。

一方、これまで廃棄されたプラスチックの行方は、世界全体ではリサイクルは1割弱、焼却が1割強。残り8割程度は、正規に収集された後、埋立や地表のごみ山などの形で環境中に蓄積するか、また正規の収集がなされず環境中に投棄され散乱してきました。アジアを旅してごみの溢れる汚水の光景を目にした方も多いと思いますが、途上国を含

環境コラム

海洋プラスチック汚染とアジア

入会のご案内

皆さまが会員となってサポートして下さることで、安定した活動計画ができます。継続した活動をしていくためにも、ご協力をお願いいたします。

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円
会費・寄付の振り込み先		
郵便振込 00960-6-10835		
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011		

夏季・コロナ募金を開始

募金のお願いが続き恐縮ですが、温かいご協力をいただきましたら幸いです。

◆郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会 ◆三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 公益社団法人アジア協会アジア友の会 ◆HP (<https://jafs.or.jp>) からクレジット決済 などをお願いします。



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人々を支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2021年1月 144号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫

川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



HPもご覧ください

新型コロナウイルス感染症の流行が限定的だった頃、孤児院の子らに近畿大学の学生が、紙芝居を使って食事前の手洗いを指導した。2020年2月21日、カンボジア、カンダメル州

◀表紙の写真 コロナが大流行するインドで、ワクチン接種に並ぶ人々。マハラシュトラ州ガッチロリ県ラッカマプーリ村。4〜13面に特集「感染爆発 苦悶のインド 新型コロナ禍の中で⑤」